

第23期 スマート・クルーズ・アカデミー 2024年度第2弾

研修クルーズ 2024 第2弾 <沖縄⇒石垣島⇒基隆(台北)⇒宮古島⇒沖縄>



5泊6日 「MSC ベリッシマ」
1/7-12

スマート・クルーズ・アカデミー & 全国クルーズ活性化会議「研修クルーズ」共同企画



スマート・クルーズ・アカデミーの趣旨

★学生の論理的思考向上の場

船上でしか味わえない、見渡す限り何も無く、それぞれが集中してやりたいことに打ち込める洋上の素晴らしい環境で、国際関係や地域発展についての社会課題について議論し、船内、寄港地にて国際感覚のより一段の向上を図る。

★クルーズ振興に向けた新たなマーケットニーズ構築の場

大学生がクルーズを体験し、若い世代からの視点で、将来のクルーズマーケットを熟成する。体験を踏まえて、日本の港湾戦略、寄港地の分析、日本の観光のあり方を議論し、自由に事業・政策提案する。

スケジュール

1月7日(火)	那覇	那覇 <観光オススメ> 首里城、識名園、国際通り、那覇市伝統工芸館	-	19:00
1月8日(水)	石垣島	石垣島 <観光オススメ> 石垣市立八重山博物館、竹富島、川平湾、パンナ公園	9:00	19:00
1月9日(木)	台湾	基隆・台湾(停泊) <観光オススメ> 潮境公園、中正公園、基隆海洋廣場、八斗子車站	7:00	-
1月10日(金)	台湾	基隆・台湾 <観光オススメ> 潮境公園、中正公園、基隆海洋廣場、八斗子車站	-	18:00
1月11日(土)	宮古島	宮古島 <観光オススメ> 伊良部大橋、砂山ビーチ、与那覇前浜ビーチ、下地島	7:00	17:00
1月12日(日)	那覇	那覇 <観光オススメ> 首里城、識名園、国際通り、那覇市伝統工芸館	8:00	-



全体スケジュール

スマートクルーズアカデミー@MSC Bellissimaの詳細スケジュール					
No.	Date	寄港地	Time	スケジュール	会場(予定)
1	1月7日 (火)	那覇	14:00	集合(第2クルーズターミナル)	第2クルーズバス
			随時	チェックイン	
			15:00	乗船説明会(日本語)	シアター
			15:45	避難訓練(船内新聞等で時間確認!変更可能性あり)	乗船後、各自場所を確認
			16:00	★学生&自治体 意見交換会	スカイラウンジ(デッキ18)
			17:30	★WELCOM MEETING(自己紹介) ★スポーツ懇親会	Sportplex(デッキ16)
			19:00	出港(那覇港出港シーン見学)	デッキ
			19:15	★コースディナー(乗船時に時間確認!変更可能性あり)	レストラン
			22:15	ショータイム(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	シアター
			23:00	サンシャインパーティー等(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	プロムナード等
			夜	夜食(各自)	マーケットプレイスビュッフェ
2	1月8日 (水)	石垣島	7:30頃	朝のお散歩&ジョギング(自由参加)	デッキ
			朝	朝食(各自)	レストラン
			9:00	石垣港入港	デッキ
			10:00	★石垣島 石垣港湾の説明(港湾事務所長)	船内
				寄港地視察・自由行動	
			19:00	出港(石垣港出港シーン見学)	デッキ
			19:15	★コースディナー(乗船時に時間確認!変更の可能性あり)	レストラン
			20:15	キャプテン&オフィサープレゼンテーション(フォーマルであれば)	プロムナード
			22:00	ショータイム(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	シアター
			23:00	ショー&パーティー等(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	プロムナード等
			夜	おしゃべりの会&夜食(各自)	マーケットプレイスビュッフェ
3	1月9日 (木)	基隆	7:00	基隆港入港	デッキ
			7:30頃	朝のお散歩&ジョギング(自由参加)	デッキ
			朝	朝食(各自)	レストラン
			10:00	★ターミナル視察(研修クルーズのみ:学生は参加不要)	ターミナル
				寄港地視察・自由行動	
			19:15	★コースディナー(乗船時に時間確認!変更の可能性あり)	レストラン
			22:00	ショータイム(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	シアター
			23:00	ショー&パーティー等(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	プロムナード等
			夜	おしゃべりの会&夜食(各自)	マーケットプレイスビュッフェ
			7:30頃	朝のお散歩&ジョギング(自由参加)	デッキ
			朝	朝食(各自)	レストラン
4	1月10日 (金)	基隆		寄港地視察・自由行動	
			16:00	★研修・アカデミープレゼンテーション	TV STUDIO
			18:00	出港(基隆港出港シーン見学)	デッキ
			19:15	★コースディナー(乗船時に時間確認!変更の可能性あり)	レストラン
			22:00	ショータイム(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	シアター
			23:00	ホワイトパーティー等(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	プロムナード等
			夜	おしゃべりの会&夜食(各自)	マーケットプレイスビュッフェ
			7:00	宮古島港入港	デッキ
			7:30頃	朝のお散歩&ジョギング(自由参加)	
			朝	朝食(各自)	レストラン
				★宮古島 平良港湾の説明(港湾事務所長)	ターミナル
5	1月11日	宮古島		寄港地視察・自由行動	
			18:00	出港(宮古島港出港シーン見学)	デッキ
			19:15	★コースディナー(乗船時に時間確認!変更の可能性あり)	レストラン
			22:00	ショータイム(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	シアター
			23:00	ショー&パーティー等(各自)(船内新聞で時間確認!変更可能性あり)	プロムナード等
			夜	おしゃべりの会&夜食(各自)	マーケットプレイスビュッフェ
			7:30頃	朝のお散歩&ジョギング(自由参加)	
			朝	朝食(各自)	
			8:00	入港(那覇入港シーン見学)	デッキ
				★SCAおよび研修クルーズ体験報告	ディスコクラブ
			適宜	下船後解散 帰路	
6	1月12日 (日)	那覇	7:30頃	朝のお散歩&ジョギング(自由参加)	
			朝	朝食(各自)	
			8:00	入港(那覇入港シーン見学)	デッキ
				★SCAおよび研修クルーズ体験報告	ディスコクラブ
			適宜	下船後解散 帰路	

スマート・クルーズ・アカデミー参加者名簿

整理 番号		予約番号	キャビン番 号	大学名	所属	学年	氏名	よみがな
1	ツイン	59878189	8207	大阪大学	国際公共政策研究科		赤井伸郎	あかい のぶお
2				兵庫県立大学	社会科学部研究科		橋本浩幸	はしもと ひろゆき
3	ツイン	59878217	8221	中京大学	経済学部		齊藤由里恵	さいとう ゆりえ
4				創価大学	経済学部		安武妙子	やすたけ たえこ
5	ツイン	58710756	12034	神戸大学	海事科学研究科		酒井裕規	さかい ひろき
6				関係者			酒井美輝	さかい みき
7	ツイン	58710411	5088	関係者			安武壽美	やすたけ すみ
8				関係者			安武勇一	やすたけ ゆういち
9	ツイン	58710757	12079	関係者			野原淑恵	のはら としえ
10				同志社大学	理工学研究科	M2	野原智哉	のはら ともや
11	ツイン	58710566	13078	神戸大学	海事科学研究科	M1	野原郁哉	のはら ふみや
12				静岡大学	総合科学技術研究科	M1	佐伯蒼士郎	さえき そうしろう
13	ツイン	57285277	10306	関西学院大学	経済学部	4	赤井勇斗	あかいゆうと
14				名古屋大学	医学部	4	細野凌佑	ほその りょうすけ
15	ツイン	57285279	10310	関西学院大学	経済学部	4	内藤博倫	ないとう ひろみち
16				関西学院大学	経済学部	4	萩森太路	はぎもり たる
17	ツイン	57215013	14092	関西学院大学	経済学部	4	中村天祈	なかむら たかき
18				関西学院大学	経済学部	4	山名将太	やまな しょうた
19	ツイン	57215110	13170	関西学院大学	経済学部	4	中垣拓巳	なかがき たくみ
20				関西学院大学	経済学部	4	児玉藍也	こだま あいや
21	ツイン	57215117	11255	関西学院大学	経済学部	4	珠数貴文	じゅず たかふみ
22				関西学院大学	経済学部	4	西村星七	にしむら せな
23	ツイン	57215119	11259	関西学院大学	社会学部	4	今井杏	いまい あん
24				関西学院大学	文学部	4	原田菜々絵	はらだ ななえ
25	ツイン	57215015	14102	関西学院大学	経済学部	4	藤富奏羽	ふじとみ かなう
26				関西学院大学	経済学部	4	瓜園千紗	うりその ちさ
27	ツイン	57215575	5097	関西学院大学	経済学部	4	小西柚衣	こにし ゆい
28				関西学院大学	経済学部	4	鈴木千晴	すずき ちはる
29	ツイン	57285365	5105	大阪大学	国際公共政策学科	4	藤原賢亮	ふじわら けんすけ
30				同志社大学	政策学部	2	中村公亮	なかむら こうすけ

全国クルーズ活性化会議研修クルーズ参加者名簿・チーム

整理 番号	主な港名	団体名	部署名	役職名	氏名	スポーツ チーム
1	金沢港	石川県	港湾活用推進室	主任主事	新保 健斗	E
2	清水港	静岡県	港湾整備課	主査	川瀬 渡	D
3	清水港	静岡県	港湾企画課	主事	荒木 謙二	A
4	清水港	静岡県	企画整備課	技師	齋藤 晴菜	C
5	清水港	静岡市	観光政策課	主査	武馬 千恵	E
6	神戸港	神戸市	経済観光局観光企画	係長	緒方 昭彦	C
7	神戸港	神戸市	経済観光局観光企画		出田 千紗	B
8	広島港	広島県	港湾振興課	主査	沖村 愛	D
9	博多港	福岡市	港営課	係員	鵜 量子	E
10	博多港	福岡市	港営課	係員	江崎 由布子	A
11	博多港	福岡市	再整備計画課	係員	鈴木 貴登	D
12	博多港	福岡市	計画課	係員	梅津 晃陽	B
13	博多港	博多港開発(株)	中央ふ頭クルーズセンター	課長補佐	畑 耕一	B
14	博多港	博多港開発(株)	中央ふ頭クルーズセンター	-	金 賢珉	C
15	油津港	宮崎県	油津港湾事務所 港営課	主事	坂本 健太郎	D
16	宮崎港	宮崎県	中部港湾事務所	主査	井上 和哉	A
17	宮崎港	宮崎市	企画政策課	主査	米村 俊希	B

研修クルーズ・アカデミープレゼンテーション

タイトル:「日本へのクルーズ客船寄港の在り方」

日時:1月10日(基隆2日目)16時より18時

16:00-16:15

第一部「クルーズ客船の歴史・現状・展望」

池田 良穂(大阪府立大学名誉教授)

16:20-17:30

第二部「寄港地の在り方」

学生プレゼン「観光地としての地域の魅力と発信方法」(5分)

自治体プレゼン「担当港湾の整備状況や取り組み」(5分)

by 各港湾(10分以内×7チーム)

<金沢港(石川県)、清水港(静岡県・静岡市)、神戸港(神戸市)、広島港(広島県)、博多港(福岡市)、油津港(宮崎県)、宮崎港(宮崎県・宮崎市)>

17:30-18:00

第3部「クルーズ客船誘致の今後の展望」

パネル討論+質疑

by 各自治体(コーディネイター:赤井伸郎)

寄港地プログラム(石垣港)

・岸壁着岸後すぐ： 船上デッキにて石垣港の概要説明



寄港地プログラム(宮古島 平良港)

・岸壁着岸後すぐ： 船上デッキにて平良港の概要説明



寄港地プログラム(基隆)

教員と自治体関係者のみ参加(学生は参加不要)

1月9日 クルーズ3日目(基隆1日目)に基隆ターミナルの視察を行います。動きやすい服装でご参加ください。＜途中、新ターミナルから旧ターミナルへの15分ほどの徒歩移動(以下地図参照)がございます。＞1時間程度の見込みです。最後に、旧ターミナルから、MSCベリッシマをバックに記念撮影を行います。

- 集合時間: 1月9日朝10時
- 集合場所: 下船後、セキュリティ通過後のターミナル内のショップや両替所の前付近

寄港地モデルコース

1日目: 台北市内観光夜は、基隆夜市＜以下地図参照＞

＜台北市内へは、下船後、徒歩5分の駅から、電車で40-50分。電車利用は格安。＞

2日目 午前: 九分観光＜市内からバスあり＞・

午後: 基隆市内観光＜船から徒歩圏内: 以下地図の基隆 TOWER および中正公園散策＞

新ターミナル＜着岸場所＞



内容

特に満足したポイントを3つ.....	10
申し込むかどうかを考えていたときのクルーズへのイメージ.....	12
クルーズの概要を知ったときの感想および参加を決定した理由	15
申し込み後、乗船日前夜に考えたこと	18
乗船前にクルーズ客船が目の前に見えたとき、岸壁で眺めたときの率直な感想	20
乗船直後の感想	23
避難訓練、安全対策への感想.....	26
クルーズ船としての船内施設（ハード面）全体の感想	29
"船内サービス(ソフト) の感想	32
"船内の SHOW やエンターテインメントの感想	38
"船内の施設での体験に関する感想	40
乗船・下船港(那覇)での感想	43
寄港地（石垣島）での感想	46
寄港地（基隆）での感想.....	50
寄港地（宮古島）での感想	53
各港湾（自治体）からのプレゼン・パネル討論を聞いての感想	56
学生プレゼンに対しての感想.....	60
スマート・クルーズ・アカデミー企画全般についての感想と今後の要望.....	63
地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割についての感想.....	67
寄港地の地域活性化に向けた、クルーズ船社（今回でいえば MSC）の役割、船社が直面する課題、今後船社に期待すること	70
クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしにむけての若い世代からの視点).....	74
クルーズ全般への感想	78
***	81

学生アンケート

特に満足したポイントを3つ

1. 第一に、普段関われない大学教員の方、自治体関係者の方たちと交流できたことだ。地域創生について考える機会はこれまであまりなかったため、そういう点で様々な知識を得る事ができたことが非常に勉強になった。また、私が担当した宮崎市を知ることで、日本にはまだまだ観光すべき面白い場所があるという気づきも得ることができた。第二に、クルーズ船に乗るという体験そのものだ。私はこれまでクルーズに乗ったことがなく、未知の体験であったため、すべてが新鮮で面白かった。船内のラグジュアリーな雰囲気は非常に魅力的だった。第三に、石垣島、台湾、宮古島をすべて観光する事ができた点です。天候によっては、すべて寄港できないケースもあると聞いていたので、すべて回る事ができてよかった。
2. 全てが初めての経験であった。クルーズ船に乗船すること、台湾に行くこと、港湾の方々と話すこと、ディスカッションを通じて地域の観光資源について考えることなど全てが初めてで貴重な経験となった。大学院の授業や研究などの机上の学習では得られないような学びも実地の現体験を通して身につけられた。特に、観光におけるマーケティングでは、その地域にとってどのようなビジョンがあり、そしてそこから逆算し、今インフラ整備などにおいて何が必要なのかについて考える機会は、とても貴重であった。
3. "時間をフルに活用すれば、1 日で観光地を堪能でき、毎日それぞれの観光地を堪能することができる。観光地間を荷物の移動をすることなく移動できる。移動にも楽しさ・快適さが十分に備わっている"
4. まず 1 つ目は、5 泊 6 日という長さでのクルーズ船に乗船できたということです。今回が初めての乗船ではなかったが、いつもは3泊4日ほどであったため物足りない感がありましたが今回の日程では存分に船内も寄港地も楽しむことができた。また 2 つ目は、毎晩のディナーである。毎晩コース料理を友人と囲んで食べたのはとても新鮮で良い思い出です。3 つ目は今回の寄港地です。沖縄をはじめとする石垣島、台湾、宮古島はどこもクルーズならではの寄港地でもあり、寝てるだけで次の寄港地に行けることは大変

魅力的でした。

- 5.一つ目はクルーズ船で多くの観光地を訪れることができたことである。二つ目はクルーズ船内でショーやプール、食事など非日常的な体験ができたことである。三つ目は自治体の方、他大学の生徒、他乗船客など様々な人と関わり、コミュニケーションが取れたことである。
6. 1.深夜まで楽しめるbuffetや、ジムなど設備が充実していた。2.巡る場所も石垣島や台湾など、自分が行ってみたいと感じていたところばかりでとてもワクワクした。3.元シルクドソレイユの方達のショーを見ることが出来るなど、普段絶対にできない意見を沢山できた。
- 7.・日本だけではなく海外に行けたこと ・食事が豪華だったこと ・プールがあったこと
- 8."・他では体験できないような体験を多くできた点。・クルーズの中だけでなく、それぞれの寄港地での観光も体験できることで複数地点での旅行を体験できる点。・普段なかなか見ることができないショーを多く見ることができた点。"
- 9.今回のクルーズ船も全体的に非常に満足することができました。その中でも特に満足することができたのは、ショーとカジノです。「シルクドソレイユ」のアクロバティックなショーを見ることができたり、カジノで勝ったり、負けたりするのは日本ではできないとても貴重な経験になりました。
- 10.クルーズ船の雰囲気 スタッフさんの対応 価格
- 11.特に満足したポイントの1つ目は、クルーズ船内の設備や施設である。人生で初めてクルーズ船に乗ったこともあり、こんなにもたくさんの施設や設備が船内に整っているのかと感動した。2つ目は、観光である。台湾や石垣島を初めて訪れ、たくさんの食や文化と出会うことができた。3つ目は、人との出会いである。初めて会う学生、教員の方々や皆と関係の方そして現地の方など多くの人と関わる機会があり、乗船前は不安であったが、優しく関わりやすい人ばかりであったので、たくさんのいい出会いがあったなと感じた。
- 12.クルーズ船の中には、プール、ジム、カジノ、劇場、レストランなど、多種多様な施設が揃っており、1日中いても飽きることがなかった。特にレストランの料理は質が高く、毎晩違うメニューを楽しめた。スタッフの対応も素晴らしく、快適な時間を過ごせた。ダンスパーティーやショーなど、毎日何かしらのイベントがあり、退屈することがなかった。特に夜のエンターテインメントは本格的で、プロのパフォーマンスを間近で楽しめた。甲板から眺める広大な海の

景色や、夜の星空がきれいだった。

13. 食事、ショー、施設

14. ①船内の設備、内装、食事等全てのクオリティが完璧で、普段味わうことができない空間を味わうことができた点。②価格がリーズナブルだった点。③石垣島、宮古島、台湾に人生で初めて行くことができた点。

15. ①クルーズ内の施設が充実している。②料理が美味しく、バリエーションも豊富。③ゆったりとした時間を過ごせる。

16. 船内施設の豊富さ、食事内容、スタッフの対応

17. ・通常では体験できないことをたくさん経験することができたこと ・六日間で四つの地域を回ることができ、一回の旅行では不可能なことを体験することができた。・食事がおいしかった。

18. プール等の船内の設備、ショー、寄港地の場所

19. ・寄港地での行動時間の豊富さ・船内のアクティビティ及び装飾・寄港地の多さ

20. まず一つ目のポイントは初対面の方々と団体行動で旅行を行うという今までにない経験をする事が出来たという事です。二つ目のポイントは時間さえ少なかったものの複数の自治体の方々の意見を聞くことが出来、新たな見識を得ることが出来たという事です。最後のポイントは、クルーズという非日常を体験することが出来、今後の旅行の幅を広げることが出来たという事。

申し込むかどうかを考えていたときのクルーズへのイメージ

1.3 つある。まず、船内に施設が全て揃っており、クルーズ船内で食、買い物など全ての消費活動が完結できる印象だ。また、船体が大きいので、揺れを感じる事はほとんどなく、地上で生活しているような感覚になるだろう。さらに、出発港が沖縄のため、船内の共通言語が日本語であるだろう。

2.クルーズは豪華で特別な体験の象徴である。特に、テレビや雑誌などの広告を通して拝見した時、そのエレガントな食事や広々とした船室、美しい海の景色に囲まれて、まるで映画のワンシーンのような非日常を過ごせる場所だと感じる。また、富裕層が休暇として訪れ、のんびりとした休日を過ごしている場所だと想像する。

3.クルーズ船は、いわゆるお金持ちが乗り、長時間かけてゆったりと旅行に行く

ようなイメージを持っている。実際にこれまでクルーズ船を知る機会、テレビや映画といったメディアを中心にしてクルーズ船へのイメージが構成されている。

4.乗船経験あり

5.世界一周旅行のような長期間の旅行をゆっくり楽しみたい人が乗るものだ。

よって、時間に余裕がある仕事をリタイアした高齢者の方が多いイメージがあるのと同時に、学生である自分には関係のない世界である。クルージング自体には非常に興味があり、船の中の構造やこういった人たちがいるのかという疑問を感じていて、いつか経験してみたい。

6.基本的に時間に余裕のある年配の方達や、経営者の人などが客層としては多いのではないか。(とにかく高貴なイメージ)自分たちのような学生はほとんどおらず場違いになってしまうのではないか。ドレスコードがあったり、少し堅苦しい雰囲気があるのではないか。移動手段と言うよりはクルーズの中で様々なエンターテインメントがあり、それを楽しむついでに色々な場所を旅することが出来る。

7. 船内の作りが豪華であるというイメージを抱いている。しかし、これまで国内を中心に何度か旅行をしてきたものの、船を利用したことは 1 度もなく、中でもクルーズは身近な存在とは言えないため、そもそも具体的なイメージが全く持てていないというのが正直なところだ。

8.乗船経験あり

9.乗船経験あり

10.学生が気軽に手を出しづらいイメージであり、普通の旅行とは違い特別感がある。

11.クルーズ船の旅が存在することは知っており、実際に憧れてはいるが、クルーズ船に乗った経験がなく、自分には縁のないものだと思っていたため、誘われたことが嬉しい。どんな施設や設備が船内にあるかもわからないが、とても興味があり、楽しみに決まっているため、是非とも参加したい。大学4年間で一番の思い出になるくらい良いものなのだろうというイメージだ。

12.クルーズと聞くと、高級で限られた人しか楽しめない特別な旅行というイメージだ。船内は優雅な雰囲気、大人向けの落ち着いた空間が広がっているだろう。また、クルーズはのんびり過ごすものという印象があり、アクティビティは少ないのではないか。

13.クルーズのイメージは、「豪華・豪遊」だ。ゆったりと寄港地を周り、ゆったりと旅の日々を過ごし、豪華な日常を過ごすことのできるものである。船内に

もさまざまな施設が充実しており、特に大人が楽しめるような施設が多いのだろう。また、異文化に触れることができるのもクルーズのイメージ（魅力）だと思う。

14.クルーズ船内の客層が富裕層ばかりのイメージ。遠方に旅行に行く移動手段として新幹線や飛行機を利用するため、クルーズで移動する自分が想像できない。普段の生活で船に乗る機会がないため、船酔いが生じないか心配。船の中での生活に不自由が生じる可能性があると思う（当時は船内設備として客室と最低限の食事しかないイメージを抱いていた）。

15.船内では、寝る時以外は常にフォーマルな格好を求められ、言語も単語で話すのではなく文章をきちんと話すことが必要条件なのでは。また、食事のマナーなど普段ならそんなに意識しないことについても学習し完璧な対応が求められるのでは。そのため、気軽にクルーズに参加して楽しむことは難しく、参加する前に自分の教養レベルを底上げしていくことが必要であるだろう。

16.クルーズ船は仕事をリタイアした時間的余裕のある中高年が、余裕のある旅を求めて乗船しているイメージだ。また、クルーズ船の客室はどちらかというと簡素なものであり、あくまでも目的地に行くための手段というイメージだ。クルーズ船の広告を「安い居酒屋のトイレの壁紙（ピースボート）」「テレビショッピング」でしか見たことがなかったこともあり、（金銭的にという意味ではなく）チープなものというマイナスなイメージもある。

17.クルーズ船と聞くと、富裕層の方が楽しんだりするものであり、学生の旅行として選択される可能性はほぼないものだというイメージがある。また、貴族のように過ごしたり、動くホテルのようにゆったりと過ごすしたりするイメージがあり、ホカンス（ホテルでの滞在そのものを目的とした休暇の過ごし方で、「ホテル」と「バカンス」を組み合わせた造語）のようなリゾート地のようなイメージだ。

18.乗船前抱いていたクルーズに対するイメージは、大人の贅沢な娯楽、移動距離が長く長期の旅、ドレスコードはフォーマルな少し硬いイメージである。私たちのような学生が乗れるものではなく、一生乗ることがないかもしれない、自分とは無縁の世界。カジュアルな服で乗船していいのか、船酔いしないのか、縁遠なものであるため、具体的なイメージが湧かない。

19.乗船経験あり

20.申し込む前のクルーズにイメージとしては、少し高級感を出した上流階級とまではいかずとも多少裕福な方々向けのプランだという風に感じている。ま

た船内では、いくら日本発着とはいえど、日本的文化は感じられず、長期クルーズの際には一種のホームシック状態に陥る可能性があるかもしれないというようには感じる。

クルーズの概要を知ったときの感想および参加を決定した理由

1. まず、日本だけでなく海外にも行けることだ。私は個人的に東南アジアを陸路で横断するなど海外旅が好きであることに加え、台湾は訪れたことがなかったため、一度行ってみたいという好奇心があった。またドレスコード付きのディナーやショーなどこれまで経験した事がない事をたくさん知れる機会だと思い、参加したいと考えた。
2. クルーズについて詳しく知ると、それが思っていたよりも多様な体験を提供していることがわかり、興味を持った。カジノやプール、ショッピング、レストラン、ショーなど楽しめるコンテンツが想像していたより盛りだくさんで驚いた。参加を決意した理由としては、それらに対する好奇心もあるが、アカデミックな内容を含めた体験を通じて自分の知見をより深めたいと思ったからだ。
3. クルーズ船といった今まで形成されていた華やかなイメージを超えるほど、船内の迫力に圧倒されたのが第一の感動である。特に、部屋の内装の綺麗さや、船内のお店、装飾が、高級モールのような印象を受け、その感動を実際に味わいたいと感じたため参加を決定した。
4. 5泊6日と今までにない乗船の長さであり、台湾もいったことがなかったというのもあり大変魅力的に感じ、今回は卒業旅行として友人と乗船することに決めた。今回は団体で乗船した。クルーズは、少人数でなくても一人ひとりのやりたいことが実現できるという点で、団体であっても楽しさは変わらないのだと実感した。
5. 船の大きさや設備の充実度が想像以上で、これまでの生活の中では経験できなかったことが経験できるのではないかと考えた。6日間の短期間のクルーズ船があることに驚きを感じ、日本国内発着のクルーズ船があるということを知った。参加を決意した理由としては、クルーズ船が思ったよりも身近なものであり、学生でも乗れるものだと感じたのに加え、来年度から就職して時間的余裕が減ると感じ、この機会を利用したいと思ったからである。
6. とにかく想像していたよりも大きな船で、内装も豪華でびっくりした。食事もある放題のコースやbuffetなどが付いていておなかいっぱい食べることが

できるし最高だと思った。また、カジノなども楽しむことが出来、普段絶対に体験することの出来ない様々な経験ができるため、卒業旅行としてこれ以上ないと感じて参加を決意した。

7.元々豪華なイメージは抱いていたものの、紹介動画を見た時に想像を遥かに上回る設備が整っており、強く興味がそそられた。今まで経験したことのない旅をクルーズ船ならできると感じ、また大学の友人たちとの卒業旅行として、一生の思い出に残ると確信して乗船を決定した。

8.乗船経験あり

9.クルーズ船の概要を聞いたときは、前回乗ったときに非常に良い思い出になったので、今回も絶対に良い思い出になるだろうと思いました。そして、人生でクルーズ船に乗る機会はあまりないだろうと思いすぐに決断しました。また、カジノをしたかったという理由もあります。

10.友人の紹介で卒業旅行という特別感を感じられると思ったため参加を決定した。様々なエンターテインメントがあると知って興味がそそられた。

11.概要を知り、プレゼンをすることにあまり自信がなく、ましてや自身の詳しい分野をプレゼンするとなるとうまくいくかどうか不安である。不安はあるものの友人とのグループプレゼンなら協力すればなんとかなるかという気持ちもある。参加を決定した理由は、仲の良い友人が複数参加し、友人たちとの思い出を作りたいと考えたからである。

12.クルーズの概要を知ると、想像以上に多様なアクティビティや施設が充実していることに驚いた。単なる移動手段ではなく、船内だけでも十分に楽しめる「動くリゾート」のような空間だと感じた。食事やエンターテインメントの種類も豊富で、特にカジノやショー、スポーツ施設などがある点に魅力を感じ、普段の旅行とは違う特別な体験ができると期待して参加を決めた。

13.クルーズを知り、参加を決定した理由としては、まず、異文化交流がしたいということと、また、贅沢な旅がしたいということだ。ショーやプールなどの施設、食事、寄港地観光を含めワクワクが詰まった5日間だと感じる。また、アメリカの船であるということから、普段日本ではできない英語での会話や、カジノができることもとても魅力的だ。

14.想像以上に船内設備がしっかりしていて、6日間不自由なく過ごせそう。船内にショッピング・ショー・プール等が内设されているほどの大きさの船が想像できない。【参加理由】学生生活の最後に、これまでの人生で経験したことがないこと・今後も経験できなさそうなことを為すため。石垣島・宮古島・台湾への旅行は今後行く可能性があるが、クルーズ船で行く機会は今

後あまりないと思う。

15. 今年が最後の学生生活ということもあり、非日常感を体験したかったという点が大きく、参加を決意した。社会人になると、なおのこと、自分で休みを調節し参加するということも難しくなると思うので、学生のうちにそういう体験に触れてみるということは自分にとってとてもいい経験になると考えた。また、友人と参加するのは今だけなのかなという思いもあり、自分だけ、家族と一緒にというのも楽しいとは思いますが、友人と参加したらさらに楽しいのではないかと思い参加を決定した。
16. クルーズ船の旅の内容というより、私を誘ってくれた友人達と時間を過ごしたいと思い参加を決定した。インターネット検索でクルーズ船の概要を知った時、クルーズ船そのものが豪華だということがわかり、自分の持っていたイメージとのギャップに驚いた。特に、毎日のディナーがコース料理だと知った時には期待値が高まったように思う。また、高級ホテルのように服装などに指定があることを知った時には、期待と共に不安もあった。
17. これまで高級なホテルというイメージがあった。船内にある数々の施設概要を目にして、まるで一つの街のようだと感じた。その中には興味をそそられるものが多数あり、今まで敷居が高いイメージがあったが少し拭われたため乗船を決意した。豪華なイメージには変わらないが、学生でも楽しめるコンテンツがたくさんあると感じた。
18. クルーズの概要を知った時は、短期間で乗船できるクルーズがあることに驚く。乗船を決めた理由は、クルーズに乗れる経験など一生ないかもしれないからである。概要を聞いた上でも身近なものに感じることはなく、未だ実感湧かず。カジュアルな服装で良いと聞いても、持ち物にフォーマルな服装という表記やコース料理という文字を見てやはり少し緊張感を持つ。
19. 自分が卒業間近であることと、これまでに参加させて頂いていたクルーズや船旅の経験がいずれも良いものであった為、参加することを決めた。沖縄と台湾を結ぶクルーズだという説明を受け、一度台湾を訪れてみたいと考えており、また沖縄も数年ぶりの訪問であったためぜひ参加したいと考えた。
20. クルーズの概要を知ったときの感想としては、思いのほかに自由度の高いものだと感じた。台湾においては安全上の都合により個人行動は制限されていたものの、宮古島や石垣島などでは大きな裁量を与えられており、自由気ままに観光できると思う。また、船内施設も思いのほか充実しており、一週間という短期クルーズにおいては暇を持て余すことはないと思う。

申し込み後、乗船日前夜に考えたこと

1. まず、船内でオンラインのミーティングができるかどうかだ。私用で重要な打ち合わせが入っていたため、それを回線に問題なくできるかどうか不安に感じている。また、個人的に台湾に興味があるため、どこを訪れるかをイメージしている。私は観光というより、現地の住民の生活スタイルを知りたいという欲求があるため、どこに行けばそれを感じられるかを考えている。
2. 乗船前夜、私はワクワクとした期待でいっぱいである。初めてのクルーズで新しい人々と出会い、異なる文化を体験することに興奮している。しかし、同時に少し不安も感じてる。海上での生活が自分に合うかどうか、予定通りに楽しめるかどうか、船酔いは起こさないだろうかなどの心配もある。それでも、これから始まる初めての冒険に胸を膨らませている。
3. クルーズ船の迫力や、そこから得られる感動に対する期待をしている。また、未知の体験であるため、どのような旅になるのかといったワクワクが生じている。一方で、船酔いをしないかや、帰りの飛行機をギリギリの時間設定で予約しているため、うまく最終日の調整をすることができるかといった不安もある。
4. 正直 15 人ほどの友人と乗船予定であり、スムーズに乗船できるのかや予定通りにことが運ぶのかなどの不安がある半面、大人数での約 1 週間の船の上の生活は初めての経験であるのと、毎度のこと毎日のコース料理やショー・カジノといった非現実への期待も大きくある。
5. 申し込み後はしばらくの間、クルーズ船に乗れるという実感がわいていなかったが、次第に乗船日が近づくにつれ、早く乗りたいという思いが募り、クルーズ船や寄港先の情報収集を行なっている。また、今回ほぼ知り合いのいない状況で参加するため、他の大学生とうまくやれるかといったことや、自身の専攻とは全くことなるプログラムへの参加であったため、うまくプレゼンできるかといった不安もある。
6. 船の中が実際どうなっているのかということはもちろん、みんなで色々な場所を観光するのがとても楽しみでわくわくしている。やはり、とにかく高貴なイメージがあるので、学生の自分たちが大勢で参加して肩身の狭い場面もあるのではないかと不安もある。また、カジノなど追加料金であそぶことの出来る施設があると聞いているので、必要以上に自分がお金を使ってしまうのではないかと心配だ。

7. 紹介動画で見た様々なアミューズメントや豪華な内装などを、にかくこの目で早く見たいという期待でずっとワクワクしている、一方で、単純に船の上で 1 週間寝泊まりすることへの不安もある。ホテルや民泊ではなく、船という移動手段が住まいになることに、いまだ、実感が湧いていない。
8. 以前乗船した時と同じような体感を再び味わうことができる喜びと、前回とは異なる寄港地での新たな体験にワクワクしている。また、以前気づくことができなかった新たな発見（特にイベントや施設の内容、以前は発見できなかった体験）もできるのではないかと感じている。
9. 乗船日前夜、楽しみと次の日の朝にきちんと起きれるかの心配だ。また、前回の乗船の中でご飯が非常に美味しかったので、今回のクルーズ船では色々な種類のご飯を食べようと思う。また、前はカジノで負けたので、今回は絶対に勝ちたいと思う。
10. クルーズ船のトラブルが発生したニュースを見て、安全性という点で不安だ。
11. 予定通りの時間に起きれるかどうかが一番の不安だ。また、自身は英語を聞き取ることは人並みに可能であるが、英語を話すことがあまり得意ではないので、船内の乗務員等とのコミュニケーションをとれるかが心配だ。そして何より、プレゼン資料や内容が完成してはいるが、うまく港の魅力を伝えるものになっているのかも不安だ。しかし、「それ以上に友人たちとの卒業旅行を絶対に楽しいものにしよう」というやる気は誰よりも強いと言う自信を持って挑もうと考えている。
12. クルーズ船は大型船であるが、やはり船の揺れによって船酔いすると思う。日本では経験できない事なので、初めてのカジノにワクワクしている
13. 不安は特になく、楽しみだという気持ちしかない。自分が全く経験したことない、見たこともない世界が広がっていると思い、人生でトップレベルの期待が込み上げてくる。全部合わせると 6 日間もあり、スケジュールも詰まっているので、とにかく体調を整え、6 日間全力で楽しむ準備が必要だと感じる。
14. 【肯定的側面】卒業論文等の大学の授業が終了し、2025 年初初めての旅行で楽しみ。下船地での観光や船内で端から端まで遊覧をしたい。乗船前にも関わらずお土産に何を買おうか悩むほどワクワクしている。【否定的側面】6 日間家に帰ることができないため、忘れ物がないか心配。クルーズ船内で英語を用いることは知っていたが、自分の要望や意見を伝えることができるか不安。

15. 申込後一番の不安は、言語の壁だ。私は英語を専攻して勉強してきたわけではないので、私の英語で伝わるのかどうかというのが一番の懸念点だ。また、マナーなども一通りは勉強してきたが、それを完璧にできるのかというのも不安だ。また、一番の期待は友人たちと色々な場所に行き楽しめること、クルーズに参加することで得られる未知の体験ができるということだ。ワクワクする気持ちがある。
16. 今日は、乗船前夜だ。寝坊やアクシデントで飛行機に乗り遅れ、沖縄に到着できず船に乗れなかったらどうしようかということがに最も不安だ。また、クルーズ船内の施設環境を完全に把握していなかったこともあり、忘れ物をしたら陸地のように簡単に買い物にいけないので忘れ物はしないでおこうとも強く意識している。さらに、外国船籍の船で外国（台湾）に行くということもあり、入国がスムーズに行くのかということも少し不安に感じている。
17. 乗船日前日は、小さな子供のようにドキドキして眠れない。船内で何をしようか、食事はどんなものだろうか、自分自身の英語は通じるだろうか、六日間でどのように船を堪能しようかなど、ほとんどが期待の気持ちだ。しかし、タイタニックやセウォール号の事故を見ていたことから、もしもの場合を考えてすこし不安な気持ちもある。
18. 多少の緊張感。コース料理のマナーがわからない、私服がカジュアルすぎないか、船酔いしないか、という不安。インターネットが繋がらないことなどの不安感。プールやカジノ、体育館、ジムが揃ったひとつのアミューズメントパークのような船設備、船自体への期待感と寄港地観光に対する期待感を持ち、高揚している。
19. 沖縄に現地集合であるため那覇港に向かう前に少々沖縄を見て回ることを考えて楽しみだ。また、自分の所属する大学から参加する学生が自分のほかにいないため、初対面の学生が多い中でうまくコミュニケーションがとれるかどうか心配だ。
20. まずにほかの参加者の方々とうまく関係を築くことが出来るだろうかという事が不安だ。実際、私は今回のクルーズでは知り合いが一人もいないという大分過酷な艦橋であるため、相部屋になる方や各種イベントと一緒に取り組むであろうことを踏まえて様々なことを考えている。また、初めての海外という事もあり、トラブルの際の対処も考えている。

乗船前にクルーズ客船が目の前に見えたとき、岸壁で眺めたときの率直な感想

(規模・スケールなど)

1. 船体がとにかくでかすぎるというのが率直な感想だ。普段から釣りをするため漁船は見慣れていたが、比べものにならないほどでかくてびっくりした。また、私が住んでいる神戸でもクルーズ船が停泊しているのを見かけることがあるが、その5倍のでかさがあったため、非常に驚いた。
2. クルーズ客船を岸壁から見た瞬間、その巨大さにただただ圧倒されていた。船はまるで海に浮かぶ高層ビルのように、その壮大なスケールと緻密に設計された構造に驚いていた。また、寄港しなくても、楽しい体験をこの船内で全て完結できるのではないかと思った。
3. クルーズ客船が目の前に見えた時、圧倒的な大きさに驚いた。バスからクルーズ客船を見た時、他の建物よりも圧倒的な大きさで存在感を放っており、あの存在感を放つクルーズ客船で5日間生活をするといったことを想像することで乗船日前夜に感じていたワクワク以上の期待を感じた。
4. 今回の MSC ベリッシマは今までに乗ったものの中ではわりと大きいほうに感じました。シンガポールを周遊しているロイヤルカリビアン船などに比べると少し物足りなさも感じましたが、個人的には船内にちょっとした町のようなストリートやスワロフスキークリスタルの吹き抜けホールなどがあり大満足でした。
5. 目の前でクルーズ船をみて、まず感じたのがクルーズ船の大きさである。想定より大きいだろうなと予想はしていたが、その何倍も大きく、まるで移動するマンションのようであった。その大きさから、乗船客は多いだろうなと感じたのと同時に、クルーズ船を動かすためにどれほどのスタッフが必要であるのかや、どれだけの設備投資が必要であるのかといった疑問が生まれた。
6. 乗船一ヶ月前に那覇に行く機会があり、その際に初めてベリッシマの船を見たが、マンションなどよりも大きくなぜ浮いているのかが不思議な程だった。その後実際に乗船前に近くで見た際には、今からこの船に乗ることが出来るという高揚感と、どこかまだ信じられないような感覚でとてもワクワクした。
7. ただ一言で「大きい」と感じた。紹介動画やその他の SNS での情報収集などを通して、クルーズ船が大きいということは事前に知っていたが、それでも想像以上の大きさに驚きを隠せなかった。一体何階建てなのだろうという疑問も湧いて、友人と階数を数えるなどした。
8. 一度体験してしまっている影響で、今回は以前ほどの大きな驚きはなかった。それでも以前とは異なる施設 1 つ 1 つのデザインを目にしながら、改めて学生ではなかなか体験できないことを体験できていることに更なる楽しみ

と期待感が生まれ、このような客船が世界で生まれていることに感動した。

9.クルーズ船を見たときに、非常に豪華なホテルだと思った。目の前で見ると、視界に全体が見えないくらい大きくてびっくりした。遠くからでも船を確認することができた。今からこんなにも大きな船に乗るのかと思ったらわくわくが止まりません。

10.予想以上に大きくて、ワクワクしたことを覚えている。

11.乗船前に空港から乗ったタクシーの中から、巨大なクルーズ客船が見えてあまりの大きさに興奮し、タクシーを降りて岸壁から実際にクルーズ客船を眺めて、今からこの大きな船で旅をするのかということに感動し、大きな期待を感じた。クルーズ客船が、想像していた大きさの30倍以上であるため、スケールの大きさに少し驚きも感じた。

12.遠くから初めて眺めたときには、建物かと、その圧倒的なスケールに驚いた。まるで巨大なビルが海の上に浮かんでいるようで、写真や映像で見ていた以上の迫力を感じた。デッキの高さや長さも想像を超えており、本当にこの船が移動するのかと不思議に思うほどだった。これから始まる非日常の旅への期待が一気に高まった。

13.今まで見てきた船の中でダントツで大きく、自分がこれに乗ると考えるととてもリッチな気持ちになります。船の窓の数からして相当な人が船に乗るんだと感じ、改めて規模の大きさに気づきます。そして、船の上の方にはアスレチックのようなものが見えた時、船の上なのにそんなことができるのかと感じ、この先の5日間にワクワクします。

14.想像の3倍以上は大きい。船の目の前に立ち、上のほうを見渡しても高すぎて見えきれず、大阪市内のマンションよりも高く感激する。縦幅・横幅・高さが全て大きいため、本当に動くのか、乗船で船を固定するためにどのような手法をとっているのかという疑問を抱いた。莫大な量の乗船者・荷物があるのにも関わらず沈まないのかが心配になった。

15.資料を見て予測してたよりも、はるかにクルーズ客船が大きく、外からスライダーやデッキが見えた時、このクルーズ客船に乗れるのは本当にすごいことだなと感じた。また、これから体験するたくさんの経験と、友人たちと過ごせる楽しい時間がこのクルーズ客船にあると考え、とてもワクワクした。絶対これから心に残り続ける旅ができると、乗る前からワクワクした。

16.クルーズ船が近づくにつれ、遠くからは建物だと思っていたものがクルーズ船だということに気づき驚いた。(初めてクルーズ船に乗る友人達も歓声を挙げていた。)岸壁からの船はあまりにも大きく見えた上、船の入りは誘

導スタッフや乗船客が思っていたよりも多くいて圧倒された。

17. まずは想像以上の大きさに驚き、クルーズ船が目の前にあるというよりは、一つの大きなホテルが目の前にある感覚だった。今回のクルーズ船よりも大きな船を今まで見たことがなかったため、本当にこの大きな船が動くのかと不思議にも思ったが、頭の中はリアルタイタニックだという感想しかなかった記憶がある。
18. 船を見て最初の印象は、大きい！本当に私たちが乗る船なのか！というものである。資料で以前より船の外観に関して拝見しており、把握していたはずだが実際目の前に立ち、見上げると想像を絶するものである。甲板の位置が高く、上ったあとの景色などを想像して乗船前からワクワク浮かれて楽しい気分だ。
19. タクシーで那覇港に降り立った時、目の前に船体がそびえており圧倒された。フェリーターミナル等から船体の一部を見るなどしたことはあったが、接岸しているクルーズ船全体を見た経験はなく、高揚感があった。乗船手続きを終えて船体に近づくと、一層巨大な船体が眼前にあり、思わず写真を撮った。
20. みなとでその姿を初めて見たときにはその今まで見たことのなかった船のスケールの大きさには驚きとともに感動を覚えた。使用方法是全くもって異なるが、今回のベリッシマを実際に見たときには、空母を目の前にしてみたらきっと同じような感覚なのだろうという風に思った。同時に、この船で一週間を過ごすことに対して大きな期待と暇はしないだろうという自身が湧いた。

乗船直後の感想

(自分のイメージしていた内容と比較した「船内の様子」)

1. 船内に入った瞬間は、ラグジュアリーな内装で人生で足を踏み入れたことのない世界だったので、ディズニーランドのような夢の世界に没入している感覚だった。船員さんは、日本人が多いと予想していたが、外国籍のスタッフが多く、とてもフレンドリーに話しかけてくれる方が多かったので、これから楽しい旅が始まりそうだなという期待感が上がっていた。
2. 乗船してすぐに、私の想像していたよりも船内の様子はずっと洗練されていて活気があった。パブリックスペースは広々としており、豪華な装飾が施されていて、まるで高級ホテルのロビーのようであった。船員の方々も非常に親

切でプロフェッショナルな態度を見せており、安心して船旅を楽しむことができそうだった。この最初の印象が、これからの旅の期待を一層高めてくれた。

- 3.クルーズ船への乗船では、圧倒的なエンタテインメント性とクルーズ船内の迫力に圧倒された。この船が動くのかという驚きと、船内の綺麗さ、スタッフの私たちを楽しませようという配慮を感じ、圧倒された。コースディナーでは、スタッフの気遣いにより、満足度が向上した。
- 4.船内は想像していた以上に広く、中心にはちょっとしたストリートや各階にくつろげるラウンジのようなものがあり毎日を優雅に過ごすことができ非日常感を感じた。また、夜のディナーでのクルーはどの人も明るく、社交的なクルーが多く言語がうまく通じなくても楽しませてくれようという工夫をしてくれていてとても過ごしやすかった。
- 5.超高級ホテルにきたような感覚である。船内の装飾はどれも煌びやかで、エレベーターの数も多く、本当に船の中か信じられなくなるほどの優雅な空間である。船員さんは外国の方が多く驚いたが、どの方も笑顔で乗船を祝福してくれるような態度であったため、非常に心地よく乗船できた。乗船客数の多さにも驚きを感じ、高齢者の方々がイメージ通り多いなという印象である。
- 6.乗船してエレベーターから降りた瞬間、本当に船の中なのか一瞬疑ってしまうほど豪華な内装に面食らった。クルーの人達は外国人の方ばかりで、それも非日常を感じることが出来て良かった。また、デッキに出るととても開放的で、テンションが上がりみんなでダンスレッスンに参加し、これからの6日間に期待を大きく膨らませた。
- 7.自分が想像していたよりも、クルーズ船の利用者が多く、パブリックスペースはかなり和気藹々としているように感じた。また、船員さんの態度は想像以上に陽気に感じた。外国人の船員さんが、カタコトの日本語を使って話しかけてくれるなど、コミュニケーションも楽しかった。
- 8.乗船直後の船内の様子や船員の態度については以前と大きな差はなかった。しかしデザインや構造については以前と大きく異なることから、新鮮な体感を感じていたことは確かであった。何度乗ったとしても、別の客船であれば飽きることなく新鮮味を味わうことができるのだと感じた。
- 9.クルーズ船に乗船すると、船の中とは思えないくらい豪華な空間が広がっていて、圧倒されました。階段の中に宝石が入っていて、光っていたり、豪華すぎる空間でした。船員の方は時々日本語で話して下さったり、日本の料理

がbuffetに置いていたりして、感動した。

10. 入ってすぐにまるで別世界のような空間に包まれ、想像以上の迫力であった。テーマパークのように感じられ、わくわくした。
11. 自分のイメージしていたよりも、乗客はもちろん乗務員さんも多いと感じた。その外国人乗務員の方々は、日本語も多少話すことができ、とてもフレンドリーに接してくれた。そのため、乗船前に抱いていた、船内でのコミュニケーションに対する不安は解消された。サービスがとても丁寧で、まるで海外の高級ホテルに宿泊しに来たのかと錯覚するほどに感動した。
12. 乗船直後、まず驚いたのは船内の広さと豪華さで、非日常感を演出していた。パブリックスペースは開放的で、どこを歩いても美しく整えられており、まるで一つの街の中にいるような感覚でした。船員さんたちはとてもフレンドリーで、笑顔で迎えてくれ、丁寧に案内してくれたので安心感があった。事前に想像していた以上に快適で、これから始まるクルーズ生活に期待が膨らんだ。
13. 乗船直後は空港のように感じた。船員の方々は英語で気さくに話してくださったので、飛び交う英語に緊張したが、気分はとても良かった。船内には自分が想像した以上にダイナミックな世界が広がっており、海外を感じられるところが多くあり、どこかの貴族になったかのような気持ちになった。特に乗船前後でギャップはなく、良い雰囲気だ。
14. 船内の内装がとても豪華、かつ船内が想像以上に広いため迷子になり、知り合いと何度もはぐれそうになった。船員に日本人が少なく、想像以上に多国籍だと感じた。船員さんの案内の仕方が良くも悪くも淡々としており、日本のホスピタリティ精神が素晴らしいということを改めて感じた。
15. 船内の様子は、予想をはるかに超える豪華さにとても驚かされた。客船内ではさまざまなイベントや施設があり、海の上に浮かぶテーマパークみただなと感じた。また、船員の皆さんも優しく、拙い英語でも一生懸命話を聞いてくれ、ゆっくりとした口調で案内してくれた。自分の不安に思っていた言語の壁もあまり感じることなく、思っていたよりもとても過ごしやすい空間だったなと感じた。ご飯も豪華で友人たちともとても楽しい時間を過ごせた。
16. 乗船直後は、何よりクルーズ船の豪華さに圧倒された。スタッフたちも日本語・英語の両方で笑顔で歓迎して下さり、ディズニーランドのような、テーマパークに来たような気持ちがして高揚した。客室に入った際にちょうどハウスキーピング中でフィリピン出身のスタッフと話す機会があったが、英語でのコミュニケーションが上手いかなくても伝えようとしてくれる感じに

好感を持てた。

- 17.乗船直後はやはり、入り口からの厳重な警備に驚き、船内にエレベーターがいくつもあるということがより船の大きさを実感させてくれた。学生でも親しみやすい施設も多いと思って乗船したものの、乗っている他のゲストや、きらきらひかる階段などを見て、高級感を感じずにはいられなかった。クルーの方々は、みなさん笑顔で日本語が上手な方が多い印象を受けた。
- 18.船内は英語だと聞き、少し緊張した。船員さんは優しく、日本語を使用してくれて安心する。乗船して最初の印象は、迷子の心配だった。はぐれたらみんなに会えるのだろうか。部屋は普通に綺麗なホテルのようで、部屋にたどり着くまでの Swarovski の階段は圧巻だった。しばらく 2 人で立ち尽くしてしまった。最初に行ったビュッフェは種類が多すぎて選びきれなかった。
- 19.船内の地面がカーペットに変わった瞬間にクルーズ船に乗船したことを実感した。また、少し歩いてプロムナードに着いたとき、天井のアーチスクリーンと通路の両側の様々な店舗を見て、気分が高ぶるのを押さえられなかった。あとから写真を見返して、出発前のみプロムナードに MSC のタペストリーが出ていたことに気付き、ゲストへの歓迎を感じた。
- 20.今回のクルーズ船の内装については以前個人的に視聴した動画配信者の動画で紹介されていたためギャップというものは余り存在していなかったが、予想以上に内装がきれいだという風に感じた。イタリア風の豪華さをしっかりと出しつつもギラギラしていない落ち着いた感じは大変居心地がよく、洗練されているものを感じることができた。力の入れようが伝わった。

避難訓練、安全対策への感想

- 1.もう少し徹底した方がよいのではないかと思った。まず、ライフジャケットはキャビン内にあるというアナウンスが流れていたが、見つからなかった。その上、スタッフに事情を伝えると、とりあえずライフジャケットはつけなくていいから集合場所に行ってくれという指示があったため、あまり中身の伴っていない避難訓練という印象を受けた。
- 2.避難訓練と安全対策の説明を受けた際、その徹底された対策・管理に感心した。非常時に備えた具体的な手順がビデオで流れ、乗客一人ひとりが安全に密にならないよう行動できるよう配慮されていたのが印象的であった。また、乗客全員に対して、その訓練が徹底されているということがとても印象的であった。

- 3.実際に映像だけではなく、移動を伴う訓練をしたおかげで、非常時にどのような動きをしたら良いかを実際に確認することができた点が良かったのではないかと考える。特に、どのエリアに移動したら良いかといったことを伴う避難訓練であったため、船内のマップを頭に入れることもでき、非常時の動きを把握することができた。
- 4.避難訓練は昔のドリルとは違い、救命胴衣をもって避難場所への集合がなく、テレビで避難の流れの確認をしてから避難場所へ行って確認をされるだけの簡単なものであり、とてもながれもスムーズで良かったです。私が経験したことがあるものは、たいていどこかのキャビンの人がきておらず時間がかかるケースであったため今回の避難訓練はとても快適に感じました。
- 5.乗船後すぐに避難訓練を実施したのは、非常に良いと感じた。スタッフの方の配置にも気を配っている印象で、スムーズに避難場所まで移動することができた。しかし、クルーズ船内の規模が大きいこともあって、避難場所への移動に非常に時間がかかったことと、実際緊急時には乗船してる人全員が同時に避難場所へ移動すると考えると、混雑により訓練通りの避難ができるのかという疑問と不安があった。
- 6.避難訓練では部屋で映像を見てから14階に行ったが、14階でクルーの人に何か言われたが英語で全く意味がわからず、クルーズカードを読み取られてこれで終わりなのかいまいち分かりずらかった。初日から船がかなり揺れていたが、とにかく船が大きいのを自分の目で見ていたのでこれが沈んだりという心配はあまり無かった。
- 7.クルーズの映画で有名なタイタニックを鑑賞したことがあり、正直事故の不安も抱いていた。しかし、乗船直後から利用者全員の絶対参加が条件の徹底された避難訓練を通して、安堵の気持ちが生まれた。何かあったとかの動きを学べたため、安心安全な船旅を過ごすことができた。
- 8.正直クルーズ船の興奮がまだ落ち着いていない中での訓練だったので、テレビを見て内容を把握すること以外に対して前向きに取り組めていなかった。しかし、避難先の内容までインプットすることで、もしもの時に焦らず対応できることから重要なイベントであると改めて感じた。
- 9.前回にクルーズ船に乗ったときは、集まって話を聞いたりしたので、今回もそのような感じなのかなと思ったら、テレビを見て、指定された場所に行くだけだったので、少しびっくりしました。その中でもしっかりと、エレベーターを使えないようにしたりしていて、効率が良いなと思いました。
- 10.多言語での避難訓練や説明でしっかりしていると感じた。

11. 避難訓練の実施前は小・中学生の時に行ったような厳しい集団行動を求められるものを想像しており少し緊張していたが、想像していたものよりも厳しいものではなく、外国人乗務員の方に談笑しながら案内してもらう船内の散歩のように感じた。乗船客が多いため、緊急時にはビデオの内容を思い出し、各自が危機感を持って行動しなければ船内が混乱して事態が悪化するため、真剣に訓練に取り組まなければならないと感じた。
12. 避難訓練はしっかりとした手順で行われ、クルーズ船の安全対策が徹底されていることを実感した。乗客が緊急時の行動を詳しく説明してもらえたので、不安なく過ごすことができた。スタッフの対応もスムーズで、分かりやすいテレビからの指示があり、実際に緊急事態が発生した際にも冷静に行動できる自信がついた。大型船ならではの安全管理の重要性を改めて理解し、安心してクルーズを楽しめる環境が整っていることに感謝した。
13. 学校の避難訓練と違って全く知らない場所での避難訓練だったので、トラブルがあった時どこに逃げるかを真剣に覚える必要があったが、正直到着した瞬間だったこともあり経路が難しくサラッと終わってしまったと感じた。何かあった時のサイレンについては何度も繰り返し流れていたのが分かりやすかった。
14. 那覇に到着し乗船直後に避難訓練を行ったため、船内の地図を全く把握できていない状態で避難訓練に挑んだ。そのためなのか、避難順路が分かりにくく避難場所に到着するまでにかなり時間がかかった。しかし、避難訓練の説明ビデオの言語が英語、中国語、日本語（その他の言語があったかどうかは曖昧）と多言語で説明してくれていたため、かなり分かりやすかった。
15. 全て英語での説明だと思っていたので、理解できるかどうか不安だったが、日本語での説明もありとてもわかりやすかった。また、避難場所に行くとき、まだ船内の状況を把握しきれていない中の訓練だったが、いろんな場所にクルーさんが立っており、場所がわからない際尋ねると丁寧に場所を教えてくれた。そのため、迷子になることもなくスムーズに避難場所にたどり着くことができた。避難訓練は必ず一回は参加することになっているため、緊急時にもあまり慌てることなく、また誘導してくれる方がいるので、落ち着いて行動できるような仕組みになっていると感じました。
16. 避難訓練に関しては、正直なところ義務を遂行するためだけに実施しているような印象を受けた。この訓練に意味があるのか疑問だと感じた。また、安全対策に関しては、船の側面に緊急脱出用のボートがたくさん見えてい

たこともあり安心感があったが、客室の多さから、緊急時に乗船客とスタッフが全員避難できるのか疑問だと感じた。

17. まず、避難訓練では各部屋で映像が流れることで、大きな船内でわざわざ一つの場所に集まる必要がなく、よりスムーズに避難訓練についての指示をみんなに出すことができる部分に感心した。また、言語別にしっかりと用意されている部分もグローバルに対応していて素晴らしいと感じた。
18. 避難訓練は動画を見て終わりだと勘違いしてしまい、いち早く次の集合場所に到着。先生方に教えていただきカードをスキャンしてもらうことを知る。私たちだけではなかったため、少しわかりにくい印象。他の乗船地からの人もいるため全員が避難訓練でないことから仕方のないことなのか。
19. 昨年参加したロイヤルカリビアンズの避難訓練と比較すると避難訓練の手順や案内にやや手こずったものの、客室でビデオを視聴し、視聴証明の電話をかけるという方法は確実であると感じた。また、各々の緊急時集合場所がクルーズカードに印字されているのは名案であると感じた。
20. 防災訓練は非常に大事なイベントであると私もふくめて、多くの方々が理解している所だと思われる。しかしながら周りを見ているとどうも形式化、形骸化している節が見受けられた。実際、このような大規模なものとなると複雑なものは難しいのは理解しているがもう少し工夫のほどがあるように見受けられた。また、自分がどこのチェックポイントなのかが非常にわかりにくかった。

クルーズ船としての船内施設（ハード面）全体の感想

（船内施設・施設のレイアウトなど）

1. 施設によっては、後方のエレベーターからでないと行けないといった制限があったため、道に迷いやすかった。また、各階に館内案内のモニターがあったが、別の階にどんな施設があるかまでは見る事ができないため、全フロアに対応してくれると、移動しやすいと思った。そもそも施設がありすぎてどこに何があるかを頭で把握しきるのは困難なのでそこは改善していただきたい。
2. クルーズ船内の施設は、期待を遥かに超える充実ぶりであった。特にプロムナードのレイアウトは、開放感があり、まるで船内に居ることを忘れてしまう

くらいの印象であった。各施設は緻密に配置されており、ショッピングエリア、レストラン、エンターテインメント施設がスムーズに繋がっていた。また、施設全体の感想として、広すぎて迷ってしまうのではないかと思った。

- 3.どの施設においても、高級感と圧倒される雰囲気があり、施設に入るだけで現実を忘れることができるようなエンターテインメント性があるのではないかと考える。特にレストランやショッピングストアのレイアウトや雰囲気が海の上とは感じさせないような綺麗さで、純粹に食事やショッピングを楽しむことができたと考える。
- 4.船内は、カジノやバー、プール・アスレチック、シアターなどアクティビティが飽きることがないほど充実しており大変楽しむことができた。エレベーターも数が多く、待つことが少なく、施設の場所もかなりわかりやすいものが多かったため1週間過ごした感じでは快適だった。
- 5.プールやレストラン、バー、ウォータースライダー、アスレチック、ジムバスケットコートやシアターなど、約1週間のクルーズ旅でも飽きずに楽しめるだけの設備が整っていると感じた。一つの船にあらゆる施設が揃っていることで、移動時間を考えずにさまざまなアクティビティを行える点はクルーズ船の利点の一つであると考ええる。
- 6.とても充実していて、特にbuffetはこれだけたくさんの人が乗船しているにもかかわらずゆっくり食事できるほど広く感じた。また、左右に別れていて片方に並んでいる食事が、反対側でもとる事ができるので上手く分散されていた。個人的にはジムがあったことがとても有難く、体を動かしながら友達と話したりとても楽しむことが出来た。
- 7.船内施設は、その内容はそれなりに知っていたものの、どれも規模感の大きさに驚いた。プールやジャグジー、ショーは自分の想像よりも規模が大きく、迫力満点であった。また、レイアウトも高級感あふれるおしゃれな作りで、非日常的な感覚を得ることができた。
- 8.以前よりも、豪華だと感じさせられるような施設であった。その感情の具体的な理由はどこから来ているのかははっきりとはわからないが、高級感が以前よりも感じられる点なのではないかと考えている。改めてどの施設内容に対しても追加でお金を払っても良いと思えるくらい充実した施設の内容であった。
- 9.船内施設それぞれで違う雰囲気の空間が広がっていた。レゴがある少し子ども向けの空間があったり、ジムや体育館のような体を動かすことのできる空間があったり、カジノやクラブなどの大人向けの空間があったり、色々な空

間を楽しむことができました。

10. 食事からアミューズメント、イベント催事が多種多様にわたっており、毎日が飽きない日々を過ごすことができる
11. 船内設備全体としてはとても良いと感じた。設備や施設のレイアウトはどれも巨大かつ美しく、どこに行っても訪れるたびに感動した。ただ、やはり巨大なクルーズ客船であるために仕方がないことではあると思うが、大きく広い船内が故にどこに何があるかや、自分が行った場所がなんという名前の場所であるかなどを覚えることが大変難しかったように感じる。
12. クルーズ船の船内施設は非常に充実しており、まるで海上のホテルやテーマパークのようだった。プロムナードは広々としていて、開放的な雰囲気があり、移動するだけでも楽しい空間だった。レストランやカフェ、バーの配置も工夫されており、どこにいても快適に過ごせるように設計されていた。また、プールやジム、シアターなどの設備も本格的で、長期間の航海でも楽しめる工夫がされていた。特に豪華な内装や照明演出が印象的で、非日常を存分に味わえる空間になっていた。
13. 特に印象的なのは、海外のショッピングモールのようなフロアだ。ピアノやバイオリンなどの演奏と共に、階段もピカピカと光っており、お姫様になった気分になった。また、ビュッフェはとても魅力的で朝も夜も楽しむことができた。朝と夜で食事内容が異なり、更には洋食コーナー、和食コーナーなど別れており、気分によって食べるものを変えれたり、夜中までやっている為夜に少しそばを食べたりすることができたので、とても充実していた。
14. 船内施設に関して想像以上に充実しており、食品やお土産などが船内で購入できる点が良いと思った。アスレチックやプール、体育館など子どものが楽しめる場所からカジノやナイトクラブ、バーなどの大人向けの施設まで幅広い年齢の客が楽しめるような施設が常備されている点が素晴らしいと感じた。乗船直後は船内地図が分からず迷子になってばかりだったが、通路は一直線しかなかったため、すぐに慣れることができた。3 日目には、船内の構造がだいたい把握出来ていたと思う。
15. クルーズ船内の5階 6 階7階部分のプロムナードがとても賑やかで天井も映像があり、夜にはそのプロムナードでパーティーが行われるなどとても楽しく非日常感あふれる空間だった。また、船内が広く自分の部屋が真ん中あたりにあったということもあり、自分の部屋の方向だったり場所を間違えることが多くあり、慣れるまでにとても時間がかかった。
16. 船内施設はとにかく豪華だと感じた。船のそこかしこに「映えスポット」があ

り、ずっと写真を撮っていた。一日目に運動会をしたが、あの人数で走り回れる体育館のような施設が船内にあることが驚きで、自分が海上にいると感することがなかった。また、連日夜遅くまでカジノをしていたが、そのような娯楽施設があることもやはり衝撃だった。

17. 船内にはいくつものレストランやシアターがあり、何千人もの人が乗っている割には人が上手に分散される構造になっている気がした。そのため、どこに行っても待ち時間などなく楽しむことができた。また、プロムナードは本当にショッピングモールのような街のような賑やかさがあり、六日間の中でいつ通っても楽しいレイアウトになっていた。

18. クルーズ船に乗ったこと自体が初めてだったため、驚きと感動の連続。船内施設に対する不満はない。船だけの1日があっても十分楽しめたと思える。船の上にプール、ウォータースライダー、アスレチック、ジャグジーなど1つのテーマパークのような施設の充実感。ジムや体育館もあり、何の不便もなく船の上でいつまでも暮らせると感じた。

19. いずれの施設もきらびやかで、どこにいても非日常を感じることができた。特にスカイラウンジからは甲板より高い位置から船上を見渡すことができ、夜間はライトアップされた船上プールと夜空の幻想的な風景を楽しめた。また室内プールの空間にはジャグジー等だけでなく卓球台やサッカーゲームが設置されており、友人達と長く様々に楽しむことができた。

20. 館内設備はとてもよく充実しており、暇をもて余すことなくこのクルーズを楽しく終えることが出来た。同時に、各種機材や廊下はきれいに掃除されており清潔で過ごしやすいものだった。船体が巨大であるため乗船してすぐの時間は自分がどこにいるのかが不安であったが、構造が非常にシンプルだったため、船内での移動も比較的行いやすかった。

"船内サービス(ソフト)の感想

- ①「レストラン・カフェ・バーでのメニューについて」,
- ②「レストラン・カフェ・バーでのサービスについて」,
- ③「キャビン清掃、ホテルレセプションについて」,
- ④「カジノにおける接客サービスクオリティー・雰囲気について」

1. レストラン・カフェ・バーでのメニューは、日本・韓国・台湾など様々な国の料理を楽しむ事ができたので、最後まで飽きることがなかった。夜食も自由に

食べる事ができたので、旅の終わりに体重計に乗ると 3kg 増量していた。これは唯一の旅の後悔である。レストラン・カフェ・バーでのサービスは、食べ終わったら片づける必要もなく、すぐに移動できるので非常に快適だった。また、ディナー会場では誕生日の方を祝う催しがあり、誕生日ではない私まで楽しませてもらうことができた。キャビン清掃はいつも観光から帰ってくると綺麗な状態にしてくれていたのも、とても心地よかった。カジノは行っておらず。

2. レストラン、カフェ、バーのメニューは豊富な選択肢があり、食事を通して毎日各国に行ったような気分になった。各飲食施設のサービスでは、スタッフの接客も丁寧でフレンドリーであるため、食事の度に心地よい時間を過ごすことができた。キャビンの清掃は日々念入りに行われ、常に清潔で整頓された状態を保っていた。ホテルレセプションの対応も迅速で親切で、どんな問い合わせにも親身に対応してくれた。カジノは船内の娯楽として特に人気があり、多彩なゲームが揃っており、エキサイティングな夜を過ごすのに最適な場所であった。また、他の学生や港湾の方々との交流の場ともなっており、とても楽しい夜を過ごせた。
3. コースディナーでは、スタッフの方々の気遣いと、想像以上に美味しいご飯によって非常に満足を感じることができた。フードメニューも、洋食だけでなく、和食もあることで、その日の気分に合わせた食事をすることができた。また、ホワイトコーデやイタリアンコーデといった、スタッフと客側が一体となって楽しむことができる仕掛けによっても楽しむことができた。キャビン清掃についても、文句のない清掃をしていただき、5日間を快適に過ごすことができた。
4. ①レストランのメニューに関しては、毎日メニューが変わり、見た目も豪華で味もとても美味しかった。ただ他のクルーズ船に比べて少しレパートリーが少なかったのかなと感じた。②サービスについては、基本的にはクルーが丁寧に接客してくれて料理もスムーズに運ばれてきた。ただ、最初のパンやメニューを聞きにくるまで時間がかかることが多かった。③キャビン清掃では毎日、部屋に帰るとしっかりとベットメイキングがなされており1週間快適に過ごすことができた。④カジノについては、初心者でもカジノに参加できるようにかなりオープンな作りになっており、友人と一緒にある程度楽しむことができた。
5. ①日本料理だけでなく、さまざまな国の料理がメニューの中に含まれていたため、楽しく食事を行えた。②夜遅くまでビュッフェが楽しめたのは好印象

で、店員さんの笑顔で気さくな対応が嬉しかった。③客室の清掃も丁寧に行なっていただき、ごみひとつ落ちていない部屋であった。④まず、クルーズ船の中にカジノがあるのには非常に驚いた。実際にカジノを楽しんでみて、日本では経験できない貴重な経験であり非常に満喫できた。日本国内では禁止されているカジノも海外に行かなくてもクルーズ船内で楽しめる点はクルージングの利点の一つであると感じた。

6.行く時間によって置いているものが変わるのがすごいと感じた。特に夜中にはピザやそばが人気でみんなで競うように沢山食べた。レストランのクルーの人たちもとても親しみやすく、ワインをボトルで頼んだ時もニコニコでついてくれた。カジノではディーラーが人によってはあまり待ってくれなかったり怖い人がいた。

7.①ビュッフェはもちろん、コースディナーまで種類が豊富で大満足なメニューだった。②船員の方々が本当に気さくで、食事だけではなく雰囲気までも楽しめる空間だった。③毎日、ベッドのシーツやシャワーの使うタオル類を新品に交換をしてくれて、快適に部屋の中を過ごせた。④日本での生活では経験することができないカジノは貴重な経験であった。ブラックジャックではルールが分からなかったが、船員さんや周りの利用者が笑顔で教えてくれて楽しくできた。

8.①それぞれ、メニューについては種類が豊富であったため非常に毎度満足感があった。しかし、実際に食べてみて思っていたのと違っていたことが多かったため、試食できるブースなどもそれぞれあるとより良いのではないかと感じた。②食器を戻さずにその場で回収してくれるのは何気に便利だと感じた。③毎度帰宅後には部屋が清掃されているため、毎日気持ちよく就寝することができた。④学生が最も興味を持つ施設の1つだと改めて感じた。他の大学のメンバーや乗船客とも仲良くなれるため学生にクルーズ船の魅力伝えるならカジノがあることをまずは薦めるだろう。

9.①レストランでは、毎日違うメニューが、各日程のテーマにあったメニューがあり、そのメニューを一つ食べるようにした。②パンが無くなると、船員の方が積極的にどのパンがほしいか聞いてくださって、細部まで目が行き届いているなと思った。③毎日深夜になるとクルーがプールがあるフロアで水を出して清掃しており、毎日楽しめているのはきちんと夜遅くまで清掃をしているからなんだと思いました。④カジノでは、色々な年代の方とコミュニケーションをとることができて、新鮮だった。同じカジノをしている人だと話しやすい、ディーラーの人も優しかった。

10. ①毎日メニューが変わり、普段食べ馴染みのないものまで堪能できる②タ
ップウォーターのサービスが欲しかった③丁寧に清掃されており、快適に過
ごすことができる④日本では見られない光景でワクワクした
11. ①メニューの数がとても多く、食べ物の好き嫌が多い自身にとってはとて
も安心した。また、日本食も多くとても良いと感じた。②サービスも非常に良
く、店員さんも丁寧に気を遣ってくれた。③数回ものを無くしたため、レセプ
ションによく行ったが丁寧に対応してくれたため、とても良かった。また、キャ
ビン清掃も丁寧であり、気持ちよく滞在をすることができた。④人生で初め
てカジノに行ったが、清掃をしたディーラーやチップ、ルーレットなど見たこ
とのないものが多く、キラキラした世界に感じた。とても良い時間を過ごすこ
とができた。
12. ①レストラン・バーのメニューはバラエティ豊かで、洋食からアジア料理ま
で楽しめた。特にビュッフェは品数が多く、毎回異なる料理を味わえたのが
良かった。②スタッフの対応は非常に丁寧で、レストランでは注文した料理
がスムーズに届き、カフェやバーでも気持ちの良いサービスを受けた。③キャ
ビン清掃は行き届いており、常に快適に過ごせた。タオルやアメニティの
補充も適切で、細かい気配りを感じた。ホテルレセプションの対応も親切で、
質問や相談に迅速に対応してくれた。④カジノは高級感があり、本格的な
雰囲気を楽しめた。ルーレットやポーカーなど多彩なゲームがあり、カジノ
初心者でも気軽に参加できる雰囲気が良かった。
13. ①メニューについてはとても豊富であり、どの国でも、どんな年齢でも、楽し
むことのできるメニューだった。とても美味しかった。②基本的には気さくに
話してくれたり、おすすめを聞いたら答えてくれたりして良かった。途中忙し
い日には、パンくださいと言っても忙しくて無理だと言われてしまったので、
対応に海外を感じつつも、やはりパン欲しかったなという気持ちもあった。
③清掃の方はすれ違うと挨拶をしてくれて、とても心地の良い朝を迎えるこ
とができた。レセプションでも、パスポートコピーの対応など聞いたら丁寧
に答えてくれたので良かった。④船内と思えないくらい充実したカジノで、
ディーラーの方は初心者の私たちに優しく接してくれた。
14. ①飲食どちらも種類が豊富で、食事ごとに何を食べようか迷うほどだった。
中でも、ビュッフェに置かれていたスクランブルエッグが美味しかった。②恥
ずかしながら拙い英語でしか会話できなかったが、私の意思をくみ取ってく
れサービスを行ってくれた。易しい英語で会話してくれたため、かなり助か
った。③すれ違うたびに笑顔で挨拶をしてくれる船員が多く、日本語でも少

し会話してくれた。とても好印象。④賭け事があまり得意ではないためカジノの遊び自体はやっていないが、友人が遊んでいたところ見ていた。カジノの種類が豊富で、とても盛り上がっていたイメージ。

15.①レストラン・カフェ・バーでのメニューについて、とてもバリエーションが豊富で、朝食のバイキングでは友人と五日間で制覇して見たいなと話していたが、制覇できないほどメニューが豊富で、自分の気分に合わせて食事内容が選べるというのはとてもいいなと感じた。②わからないことや、迷ったりすると手助けしてくれ、とてもサービスが行き届いているなと感じた。③清掃については初日バスタオルに大量の髪の毛がついていて驚いたが、そのあとは何もなくとても清潔に部屋がきれいに保たれていたためとても満足だ。④カジノについては、私は参加していないのであまりわからないが、参加していた友人がとても楽しそうだったので、いい体験や思い出ができたのだと思う。

16.①レストラン・カフェ・バーのメニューについては、とにかく選択肢が多かったこともあり、食べるものがないという状況になることはなかった。(むしろ食べたいものが多すぎて毎日苦しくなるまで食べることができた。)②サービスについては、どのスタッフもフレンドリーでかつ礼儀を持って接してくれたこともあり、大満足だった。ディナーの際に基本的に席が同じで、担当スタッフも変わらなかったこともあり、話が弾み楽しい時間を過ごすことができた。③キャビン清掃に関しても、担当スタッフが決まっていたこともあり疑問点があればすぐに話すことができる関係性を築けていたように感じる。私が自分の客室が分からなくなり迷子になっていた際も、私の客室を把握しており教えてくれた時は、把握されていることが嬉しかった。また、タオルの補充忘れというアクシデントもあったが、それを報告すると誠実に対応して下さった。悪い意味で海外的な接客を予想していたので、実際とのギャップに驚いた。④カジノに関しては、ゲームの種類も多く毎日時間を忘れて楽しむことができた。また、国籍に関わらず他の乗船客と交流する機会にもなっていた。ただ、カジノで友人のほとんどが負けていたので、クルーズ船のカジノ収益が気になった。

17.①レストランでは毎日メニューが変わっていたため、毎晩楽しみに食事をすることができた。また、魚や肉などのバランスもよく構成されており、飽きずに楽しむことができる内容だったと思う。②サービスについては、少し不十分な気がした。人数は十分にいるものの、うまく連携が取れていなかったり、頼んだメニューとは別のものが出てきたりと忙しそうな印象があった。しかし、

接客態度はとても笑顔で話していて心地のいい態度だった。③ホテルレセプションは何度もお世話になったが、日本語対応のクルーが多数いることで安心して利用することができ、また、サービスも丁寧だった。キャビンの清掃においては、最低限はされているという印象であり、日本のホテルなどの清掃に慣れている分少し残念に感じた。④カジノは、アディクションの危険性があり複雑な気分だった。しかし、日本では見ることができないディーラーの姿や、たくさんのお金をかける年配の方などを見て、まるで映画の中にいるような経験ができた。

18. ①コース料理でメニューが選べるのは、好きなものを選べるだけでなく、量も調整でき、フードロスにも役立つと聞いたがその通りであり、画期的な方法だと感じた。②レストランは席に関して問題があった時、何度か抗議してもらったが、その後は快く受け入れてくれた。フレンドリーなスタッフさんが多く楽しく食事ができた。バースデーパーティーやイタリアンパーティーは特に楽しいものであった。③常に部屋は清潔な印象があったし、シーツも毎回綺麗にしてありとても気持ちよかった。④日本ではできない貴重な経験で、総合的にはみんなあまり良い結果ではなかったが、儲ける場所ではなく楽しむ場所と考えれば、みんなで通うほど楽しめた。

19. ①ビュッフェ、レストランとともにメニューが豊富であり、ビュッフェに関しては朝、昼、深夜で料理のレパートリーが変化している等ゲストを飽きさせない工夫がされていると感じた。②注文やリクエストへの応答が少々時間を有すると感じることもあったが、日本語や英語を話せるスタッフが笑顔でコミュニケーションを取りに来てくれる等良い雰囲気であった。③ベッドメイクや室内の清掃が非常に高頻度であったことが印象的であった。アクティビティ等で疲れても部屋に帰れば休めるという安心感があった。④初めてであったが非常に楽しめた。出航直後はディーラーが甘い等といった噂も耳にし、次回乗船することがあれば早めに遊戯に挑みたいと感じた。

20. レストランで提供されていたメニューは基本的に私たちが日本で食べているものと変わりがなく、また高級料理店のような凝った造りではなかったため、万人受け、ファミリー層にも親しんでいただけるような工夫がなされているんだという風に思えた。ルーム清掃では、よく清掃されておりベットメイキングもしわがなく良く手入れされていたが、汚れてしまったシーツが洗濯されておらず交換されていなかったのは少し不満であった。最後にバーについて、私は利用しなかったが、遠くから見ていると非常に丁寧にこやかな接客をされているというように感じた。

"船内の SHOW やエンターテインメントの感想

【船内鑑賞イベント全般、プロダクションショー】""

- 1.参加できていない。
- 2.正直なところ、ショーは船内で行われる小規模なものでクオリティに対してもあまり期待はしていなかった。しかし、船内で提供されるショーやエンターテインメントは、「揺れる船の中でこんな事ができるのか」と思うくらい本当に圧倒されるほど魅力的であった。有料ショーもそのクオリティの高さに驚かされ、特にダンスや音楽のライブパフォーマンスは圧巻であった。
- 3.圧倒的なエンターテインメント性に感動することができ、新たな趣味を見つけることができたのではないかと考える。特に有料ショーでは、人間にこんなことができるのかといったようなショーを見ることで、圧倒されるとともに、このショーを実現するために行った努力が垣間見え、感動することができたと考える。
- 4.船内の毎晩の SHOW は、すべてに参加することはできませんでしたが、コメディショーやミュージカルといった普段見ることのない多様なジャンルの SHOW を見ることができ、友人と大変盛り上がりました。また最終日の有料のショーはシルクドソレイユ出身のダンサーによる立体的な空中での回転ショーはどこか神秘的で幻想的なものであり目を奪われました。
- 5.ディナー後に無料のショーを見ることができたことは毎晩の楽しみであった。無料で見られる点が多く乗船客にとって良心的であると感じ、ショーの質も高かったと感じた。有料ショーは圧巻で、元シルクドソレイユの方のショーが 20 ドルで見られたことは一生の思い出である。より多くの人にお勧めしたいのと同時に、違うショーも見たいと感じた。
- 6.初日のペンギンのショーと、元シルク・ドゥ・ソレイユの団員の方々のショーに参加した。初日の無料のペンギンのショーは、正直ジャグリングやマジックなどのクオリティはあまり高いと感じなかったが、演者のキャラがとてもよくみんなを虜にしていた。有料の元シルクドソレイユの方たちのショーの方は、表現力がとても高く、初めてあのようなショーを生で見たが、とても感動した
- 7.どれもクオリティが高く、存分に楽しめた。中でも、有料ショーの元シルクドソレイユの方々のショーが 1 番心に残っている。クルーズ船に乗って、沖縄や台湾へ旅行に行くだけではなく、その移動時間さえもこのような楽しみ方ができるという点に改めてクルーズの良さを感じた。

8. 普段の生活の中ではショーと出会うこと自体少ないため、本当にお金を払う価値があったのか半信半疑のまま体験した。実際には本当に見れて良かったと感じるショーばかりであり、これから社会人になる際に休日の過ごし方としての新たな選択肢を生むことができた。
9. 私は船内の SHOW で特に印象に残っているのは、有料のシルクドソレイユのショーです。私自身あまりショーを見ることがなく、見るだけでいいだけでも貴重なのに、シルクドソレイユという有名の方々のショーを見ることができて非常に貴重な経験をさせてもらいました。ショーの中で浮いているポールにつかまって色々な動きをしている方がいて、筋肉すごと思いました。
10. クラブパーティの雰囲気がとても好みだった
11. ちゃんとした盛大な SHOW を見るのは初めてであったため、鑑賞前はどんなものなのかとても楽しみであった。実際に鑑賞した後は、SHOW のスケールの大きさや圧倒的な迫力に魅了され、とても感動した。大玉が浮いたり、ポールダンスのようなものもあり、観客の好奇心を煽るものが多く、大変興味深かった。実際に自身でも SHOW を見に行ってみたいと感じる良い経験になった。
12. 船内の SHOW やエンターテインメントは非常に充実しており、每晚異なるショーが楽しめたのが魅力的でした。プロダクションショーでは、ダンサーやシンガーのパフォーマンスが華やかで、まるで本場の劇場にいるかのような感覚を味わえました。有料ショーもクオリティが高く、特にシルクドソレイユの方々のアクロバットは、印象的でした。客席の設備も快適で、音響や照明の演出も素晴らしく、非日常を存分に楽しめました。
13. いくつかのショーを見ましたが、どれも素晴らしいショーでした。無料のショーでは英語、日本語、中国語の解説があったこともとても魅力に感じました。特に有料ショーの、元シルク・ドゥ・ソレイユの方々のショーは値段以上の価値があると感じました。写真撮影にも応じてくださりとても光栄で貴重な経験でした。
14. あっという間に時間が過ぎたように感じる。ショーが始まる前の説明の際、日中英の言語で説明してくださったので、分かりやすかった。当時、有料ショーを見るか悩んでいたが、フリードリンクを飲みながらミュージカルショーをみる機会は今後ないと思った。とても素晴らしかった。
15. プロの方によるパフォーマンスショーやライブ演奏は、海の上であることを忘れるくらいにとっても本格的で、どのショーも感動しました。無料でこのようなすごいショーを見てもいいのかとても驚きましたし、マジックショーも仕

掛けがわからないほど巧妙で、また参加型のパフォーマンスがあったりととても楽しい時間をすごすことができました。ショーの中でも MYUT が一番印象に残っており、船内でありながら空中パフォーマンスができる体幹の強さとさまざまな演出にとっても驚かされました。

16. 船内のエンターテイメントに関しては、無料のものも有料のものに劣らずクオリティが高かったように思う。船内の揺れにも関わらず、それを感じさせないパフォーマンスをしていたスタッフに衝撃を受けた。ただ、有料ショーは素晴らしかったものの、無料のショーもクオリティが高かったことから、あえてお金を払って有料のショーを見ないでもいいかなと思ってしまった。
17. コメディからコンサート、ミュージカルまで、さまざまなジャンルのものを楽しむことができて本当によかった。また、無料で楽しめるものでもクオリティが高く、毎度四十五分間を有意義に過ごすことができたと思う。有料ショーに関しては、元シルク・ド・ソレイユの方々が出演しているショーを見ることができ、その美しさに見惚れてしまった。有料でも価値があるものだと感じた。
18. ショーは毎日スタイルの異なるもので毎日新鮮で楽しめた。有料ショーは特に印象に残っている。なんといっても迫力がすごくて圧倒されっぱなしであった。正直なところ、ストーリーはあまり理解できなかったが、春夏秋冬を表していたのをとても美しいと感じたし、人間が表現する最大の美しさのようなものを感じた。
19. エンターテインメント、ミュージック、ショーとシアターでの演目のジャンルが多岐に渡っていることが印象的だった。個人的にはロックンロールの演目が記憶に残っており、メタルやロックミュージックが好きな自分にとって非常に満足度の高い時間であった。プロムナードやプールサイドで行われていたダンスレッスンやダンスバトルも、観客でも十分楽しめるものであった。
20. 劇団員の方々による有料のショーは大半にダイナミックで今まで見たどのパフォーマンスに勝るものがあり、終始飽きることなく楽しむことが出来た。またエンターテイメントとしてのコメディは基本英語だったもののやはり娯楽というものは人が考えるものなので言語がわからなくてもしっかりと楽しむことが出来るとわかり、交流において言語は補助的なものと分かった。

"船内の施設での体験に関する感想

(ジム・ゲーム(ボーリング、VR、FI)・カジノ・SPORTPLEX など)や体験型イベント(ダンス PARTY・ビンゴなど))

1. ジムを利用した。船内についているジムとは思えないくらい器具が充実していた。また、海の景色を見ながらトレーニングできるので、インターバルの時間はとてもリラックスすることができた。船内にコインランドリーさえついていれば、トレーニングウェアを洗濯できるので何回でも利用したかった。
2. 船内のジムは最新設備が整っており、海を眺めながらのエクササイズは一段と気持ち良かった。また、毎朝のストレッチは、多くの乗客が集まり、とても活気があった。スライダーやアスレチックなどのアクティビティに関しては、参加はしていないが、次回、乗船した際にはぜひ体験したいと思う。
3. ジムに行った際には、クルーズ船とは思えないようなトレーニング器具の豊富さや、海を見ながらのトレーニングができるレイアウトに驚いた。圧倒的なトレーニング器具の量と、その質に驚くとともに、質の高いトレーニングをすることができた。
4. 私自身は、ジムやスライダーを利用しなかったのかわからないが、夜に友人とディスコパーティーみたいなものに参加しました。普段このような場に足を踏み入れたことがなかったため、とても新鮮で友人と一緒に歌ったり、ダンスをしたことはとても楽しかった。
5. ウォータースライダーやプール、卓球を楽しんだが、自分が船の上にいることを忘れるぐらい、施設が充実していると感じた。大人数で楽しめるものだけでなく、ジャグジーなど 1 人でゆっくりできるスポットもあり、多くの人が過ごしやすい環境が整っていると感じた。ジムやアスレチック、ダンスなどは十分に行えなかったのも、ぜひ次の機会ではより多くのアクティビティを楽しみたい。
6. ジムがあったのはとても嬉しかった。友達と体を動かしながらお喋りして、そのあとデッキに出るのが気持ちよかった。初日にはデッキでダンスレッスンが行われていて、主に高齢の方が多かったが、テンションが上がってみんなが参加したら抜けられなくなって面白かった。また、スライダーなどもあったが水が海水なのはびっくりした。
7. 毎日ジムに通ったが、船の中とは思えないほどに設備が充実していた。様々な種類の器具が設置されており、日本で通っているジムともほとんど差を感じないレベルで感動した。また、スライダーやアスレチックも利用したが、本格的な作りで存分に楽しむことができた。
8. 普段の生活の中では 3000 円以上かかるようなイベントや施設ばかりであり、スライダーなどは人が混んでいて実際は体験回数が少なくなることが多いため、何度もスライダーができたことが良い思い出であった。また、普

段からジムに行くためジム施設があることは改めて大きな魅力であった。

9. 今回のクルーズ船では毎日ジムに行っていたのですが、豪華な景色を見ながら行えるトレーニングは、とても有意義に行うことができました。また、トレーニング器具もそろっていて良かったです。スライダーは数回しか乗ることができなかったのですが、船の上でスライダーに乗るというとても貴重な体験をすることができました。

10. 利用していないのでわからない

11. 数回ジムで運動をしたが、船内にあるものとは思えないほど設備が綺麗で整っていたため、とても良い時間を過ごすことができた。また、スライダー・アスレチックには友人たちと最終日に行ったがこちらもジム同様に、船内にあるものとは思えないほど大きく、楽しかった。学生組のほぼ全員で行っても楽しめるほどに大きかったため、とても良い思い出になった。

12. "船内の施設は想像以上に充実しており、ジムは広々として最新の設備が揃っていたため、快適に運動を楽しめた。スライダーやアスレチックは大人でも十分に楽しめるアクティビティで、特にスライダーは爽快感があった。ダンス PARTY は音楽と照明の演出が素晴らしく、多くの乗客が一体となって踊り、まるでクラブのような雰囲気だった。また、私の友人もイタリアのダンス勝負をしており大変楽しめた。"

13. スライダーを楽しんだが、海水だったことに驚いた。また、思ったより距離も長く本格的で、とても楽しかった。ダンスにも少しだけ参加したが、少し年配の方が楽しそうに踊っていたのがとても印象的だった。ザ・海外だなと感じられるような雰囲気のダンスで、恥ずかしさを忘れて楽しく踊ることができた。

14. 体験型施設や体験型イベントに参加していないためわからない点が多く友人が体験している姿を見ているだけだったが、ジャグジーや温水プールにいる人たちが楽しそうだった。屋内プールの近くにあった卓球のみ友達とやったが、時間を忘れて楽しんだ。ご飯を食べた後に卓球をしたのがすごく楽しかった。

15. 船内の施設はアスレチックやスライダー、プールやジャグジーはもちろん、そのほかにもバスケットコートまで完備されており、友人たちとジャグジーでゆったり景色眺めながら話したり、スライダーやアスレチックでスリルを体験したりと、体を動かしながら、または癒しながら、友人ととても楽しく過ごすことができてとても、いい思い出になりました。一つの船内で、たくさんのことを一度にできるのはテーマパークみたいでとても楽しむことができました。

- 16.クルーズ最終日前日に初めてスライダーと室内プールを体験した。楽しかった気持ちもちろんあるが、とにかく寒かった印象がある。プールに常に入れるとは言っても船に乗る季節も重要だなと感じた。ここでも他の乗船客と話す機会があり、クルーズに乗った経緯などを話し合うことができて良い時間を過ごせた。
- 17.船内にある施設はどれも魅力的だったが、冬場のクルーズ旅だったこともあり、プールに入ることができたことがとても印象に残っている。そもそも大学生になってスライダーに乗る機会がなかったため、その経験を船の上でできたことがとても嬉しく、水の上に浮かぶ船の上で自分が水の中に入っているというのはとても不思議な感覚だった。体験型イベントは見るだけで参加はしていないが、友人が参加しているのを見るだけでも面白かった。
- 18.プール、スライダーを体験した。宮古島に停船中の船の上で滑ったため、滑る前の上からの景色、海がとても綺麗で今までで一番贅沢なウォータースライダーであった。滑ってみると、船の上とは感じられない程、迫力もあり満足度の高い楽しいものであった。エアロビのようなものに少し参加した。ついていくのに必死だったが楽しい運動ができた。
- 19.ウォータースライダーが3種類と充実しており、併設されているアスレチックにおいても眼下に海が広がるポイントがある等特別感のあるアトラクションが多く、非常に爽快感があった。水着を忘れてしまい、楽しむ友人を撮影する事しかできなかったのが痛恨の失敗であった。
- 20.私たちはアスレチックやスライダーは最終日に遊んだが、後部甲板に設置されたスライダーからの眺望はとても良いものがあり、またそこまでスリリングなものではなかったため、最終日にとっても良い思い出を作ることが出来てとても良かった。また、カジノやビンゴといった現在の日本ではめったにできない面白い体験もできよい社会学習となった。

乗船・下船港(那覇)での感想

(港・ターミナルの施設評価、乗船時対応の感想、観光地としての魅力など)

1. 非常に良かった。那覇空港に着いてから、MSC クルーズ乗船客専用のバスが出ており、スタッフが分かりやすく指示を出してくれていたため、道に迷うことがなかった。港に到着してから、船内に入る際も、たくさんの人がいた

が、スタッフがスムーズに案内してくれたため、列に並ぶのに疲れたという印象もなく、ストレスフリーだった。

2. 那覇の港は非常に整備されており、ターミナル施設も清潔で利用しやすかった。乗船および下船時の対応はスムーズで、スタッフの対応も親切であった。那覇自体も魅力的な観光地であり、港から市内へのアクセスが良好で、短時間の滞在でも満足できた。このような便利さと魅力は、やはり観光客が多いことからインフラ整備が他の沖縄の地域に比べて進んでいると感じた。また、旅の素晴らしいスタートと締めくくりであった。
3. 那覇では、滞在時間が少なく結果的には港と空港との行き来だけになってしまった。空港から港まで行く際には、タクシーのほとんどが予約されており、どのように空港まで行けるのかがわからず戸惑う場面もあった。一方で、港付近に乗り合いバスやタクシーが手配されており、なるべくスムーズに空港まで移動することができた。
4. 那覇港での乗船時でのターミナルでは、予定の乗船時間よりも早く行ったが、スムーズにあまり待つこともなく乗船することができ、船内に乗船した後もかなり早く荷物が部屋に届いており、とても良かったです。また、下船時も特に待つこともなくスムーズに下船することができ、荷物も預けてましたが、取りやすいように羅列されており混雑することなくターミナルを出ることができ、快適でした。
5. ターミナルの位置が空港から比較的近くに位置していたことはフライ&クルーズを行う上での利点であると感じた。港の大きさも広く、タクシーやバスなどの乗り降りも非常にスムーズに行えていた点が乗船客にとっては非常に良かったと思う。那覇自体が観光スポットのたくさんある場所であるため、下船後も沖縄を楽しめた。東・東南アジアには地理的にも行きやすく、乗船・下船地として適していると感じた。
6. 空港からタクシーですぐ行けるのが良いと感じた。また沖縄の人は気さくで話しやすい人が多いので、タクシーの中でも「学生でクルーズ船なんて思い切ったね!」と声をかけてくださって楽しくお話出来た。最終日には国際通りで昼からお酒を飲んだが、そこでもやはり人がとてもよく、店員さんがサービスしてくれ、とても良い所だと思った。
7. 港からタクシーで少しいけば、国際通りや空港に出向くことができ、那覇と言えば!の観光スポットを存分に満喫することができた。友人とシーサーのぬいぐるみをお揃いで買ったり、オリオンビールを飲んだりした。お土産屋さんが充実しており、思い出を形に残すことができて非常に満足だった。

8. 飛行機に乗り遅れてしまい、到着から乗船までの時間が短かったため最初的那覇での観光は堪能できなかったが下船時に国際通りの観光を満足して送ることができた。港までのアクセスが難しかったことは少し難点であったが、到着後や乗船時の対応についてもスムーズに乗船できたため不満は全くなかった。
9. 乗船前はあまり観光することができなかったが、下船後は国際通りに観光に行くことができた。その時感じたことは、海外の人が非常に多いなど。聞こえる会話が中国語であったり、英語であったり、日本語よりも外国語の方が多く聞こえてびっくりした。
10. 市街地にはタクシーで数分で出ることができるため、時間を無駄にすることなく観光することができる
11. 国際通りまで電車で数分で行くことができ、立地がとても良かったように感じる。また、平日に行ったにも関わらず、昼間から沖縄居酒屋などが賑わっており、とても楽しい街に感じた。現地で出会った店員さんも人数分のお酒を提供してくれ、現地の人々の明るさを感じ、沖縄の良さを肌身を通じて感じることができたと考える。
12. 那覇港のターミナルは広々としており、乗船・下船の流れもスムーズでした。スタッフの案内が丁寧で、混雑も適切に管理されていたため、不安なく移動できた。観光地としても魅力的で、国際通りなど訪れるべきスポットが多く、グルメも充実しており、沖縄らしい文化を存分に楽しめる場所だと感じた。
13. 那覇では乗船時あまり時間がなく何もできなかったが、下船時には国際通りで観光することができた。やはり沖縄の人は暖かく楽しく観光ができた。港にはタクシーが常時待っていてくれた為、そこまで並ぶ事はなかったが、それでも行列を作っていたので、交通の便で何か対策があるとより良いのではないかと感じた。乗船時、下船時にはスタッフの方がとても優しく分かりやすい対応をしてくれた。
14. 那覇港から出るシャトルバスが何本も出ていて、都市部にすぐ出れたのがよかった。観光地としては、ゆいレールに乗車するだけでさまざまな観光地に到着する点が良いと思った。中でも、私は牧志駅で降りて国際通りに向かい、ゴーヤチャンプルーやブルーシールなどの沖縄の郷土料理をたくさん食べることができ、お土産もたくさん購入できるので良い観光地だと思う。
15. まず、港に行くということが普通の旅行ではないので、その道中で海沿いを

車で走りながらクルーズ船が見えた時はとてもワクワクした。また、観光地は電車で行けるところにあり、アクセスも簡単だった。那覇では国際通りに行ったが、国際通りのお店の定員さんもとてもフレンドリーで、一緒にわいわいしながら楽しむことができました。みんなでくじ引きをしたり、沖縄の郷土料理を食べたりなどとても楽しかった。

16. 那覇港は空港から近いこともあり、乗船時・下船時共にタクシーで問題なく移動できたことから、立地に関しては何も問題がないように感じた。観光地の魅力であるが、那覇市内は観光地が密集していることもあり下船後も時間に余裕を持って楽しむことができた。乗船・下船時の港のスタッフの対応は特に印象にないが、それはスムーズだったからだろう。

17. 那覇は、最終日に下船後少し観光することができたが、まずは気候が本島とは違うため過ごしやすい気がした。下船と乗船は特に問題はなくスムーズだった気がする。船が港にあるため、移動が少し難しいという部分があるが、タクシーを使えば基本的にどこにでもすぐに向かうことができる気がした。観光地としては、やはり有名な観光地がたくさんあることもあっていく場所には困らなかった。

18. 那覇港は、空港からは少し距離があり、荷物があるため帰りの観光は難しく、一度空港に戻ってからの観光になった。ターミナルでは、乗船時も下船時も、荷物を預けたり、チェックインしたり、やることが多いわりにそれほど待ち時間もなく、スムーズでよかった。

19. タクシーでクルーズ乗り場の眼前まで乗り付けることができ、荷物を持ち歩く距離が短かったことが好印象であった。また、乗船手続きの過程においても、番号札で効率的に手続きを進めることが出来たり、ドリンクが準備されており乗船前から特別な雰囲気を感じられたりと綿密な気配り・配慮を感じられた。

20. 那覇は付近の観光地からもそれほど離れておらず、また、空港や各種港湾ともにアクセスが良いため非常に観光しやすい都市だと感じた。しかしながら、モノレールの車両編成が短いため収支混雑している風景を見かけた。今回のように閑散期の冬でさえこうなのだから、夏場にはどのような混雑緩和の手段を取るのかが少しばかり気になった。

寄港地(石垣島)での感想

(港・ターミナルの施設評価、観光地としての魅力など)

1. 下船後、タクシー待ちの乗客で並んでいたのも事前に予約しておいた方がスムーズに観光できたと思う。私たちは、タクシーでレンタカー屋まで行き、その後はドライブを楽しんだ。個人的には生粋のヨーグルト好きなので、八重山ゲンキ乳業で飲んだヨーグルトスムージーがハイライトである。沖縄エリアにしかないのも、乳製品好きはぜひ一度足を運ぶべきだと思う。
2. 石垣島の港は訪れるのに非常に便利で、レンタカーショップなどの中心街にもすぐアクセスでき、観光にも最適な立地であった。島自体の自然が豊かで、展望台や美しいビーチなど魅力的な観光スポットも多かった。一方で、観光スポットが点在しているため、レンタカーの必要性は感じた。滞在は短かったものの、島の美しさと暖かい地元の雰囲気をも十分に味わうことができた。
3. 石垣島探索では、景色・食の 2 つの点から石垣島を堪能することができたと考える。特に景色では、石垣島の自然の豊かさや展望台から見える石垣島の海を含めた絶景に感動することができたと考える。また、展望台から見えるクルーズ船の大きさに、どの建物よりもクルーズ船が大きいことから、改めて圧倒された。
4. 石垣島も下船に時間がかかることなく、ターミナルにはたくさんのタクシーがおり、すぐに移動が可能で効率も良かった。私たちは、レンタカーを借りて石垣島を周遊しましたが、遠くても 1 時間しかかからないため、いきなかった場所はほとんど行くことが出来て、大変満足です。石垣島は、ちょうど 1 日くらいで回ることが出来るのでクルーズの寄港地としてはとても良い場所だと感じました。
5. 石垣島ではレンタカーを借りて、川平湾ややいま村などの観光地観光を行った。下船を下船開始時刻直後に行ったため、下船客が多く見えたが、タクシーが多く待機していたため、近くの港までは比較的楽に移動することができた。観光地としてはレンタカーでの移動が必要であったため、海外の乗船客にとっては観光が難しかったのではないかと考える。
6. まず何よりも海がとても綺麗で感動した。車で川平海岸に行き石垣島気分を味わい、やいま村に行きリスザルなどと触れ合った。全体的に同じ日本なのに風景が全く違い、旅行に来た感が強いのが大きな魅力だと感じた。観光地だが人が少ないのでゆっくりできるし気持ちが落ち着くような気がした。
7. レンタカーを借りて、いくつか観光地を巡った。島内がそれほど広すぎず、車

があればどれも好きなところを周れる距離感であるおかげで、時間が限られていても十分に楽しむことができた。また、日中は長袖が暑く感じるくらいの気温で、1月の日本をまた違う形で楽しむことができた。

8. この時期であれば過ごしやすい気候であり、観光地としては非常に自然を体感できる良い場所であると感じた。一方で車やタクシーがなければ観光が難しく、マリンスポーツなどの長めの時間を要する観光内容のイメージがあるため、クルーズ船の寄港は観光時間が短めなこともあり、ツアーに参加しない個人旅行向けの寄港地としては向いていないのではないかと感じた。
9. 石垣島では、レンタカーを借りて、海に行ったり、動物を見ることのできる場所に行ったりしました。レンタカーを借りる場所までタクシーで行ったのですが、タクシーの運転手の方が人が多くなりやすい場所や比較的人の少ない穴場の観光地を教えてください、そのようなところも魅力だなと感じました。
10. レンタカーを借りてオーシャンを眺めながら観光することができた。
11. レンタカーを借りてドライブをし、猿と触れ合えるテーマパークやマングローブ、海など観光できる場所が多く、観光地としてとても良い場所であると感じた。現地の食堂屋さんや島おでんに泡盛など、石垣島の食べ物も堪能することができ、とても感動した。また、石垣島の海を背景にとっても良い写真が撮れたため、お気に入りの観光地である。
12. 石垣島では、海と豊かな自然に感動しました。港はアクセスが良く、観光地への移動もスムーズで便利でした。ドライブ品が島内を散策し、地元の食事でも絶品でした。沖縄ならではの温かい雰囲気があり、短い滞在ながらもリラックスできる素晴らしい時間を過ごせました。クルーズの寄港地として魅力的で、また訪れたい場所です。
13. 石垣島では、川平湾、やいま村に行きました。とても暖かく、足だけ海に入ることもできました。石垣島の人達はとても優しく、レンタカーを借りる時も協力的で、タクシーの運転手さん達も石垣島についてたくさん教えてくださいました。港から海を見渡せる景色もとても綺麗でした。
14. 石垣島ではレンタカー、もしくはレンタルサイクルがないと観光には不向きだと感じた。実際私たちは、レンタカーを借りて川平湾などの観光地に向かったが、観光客はほとんどレンタカーを借りていた印象がある。そのためファミリー層や大学生の卒業旅行には向いているが、高校生の卒業旅行には少し不向きだと感じた。

- 15.石垣島では、みんなでレンタカーをして川平湾ややいま村に行きました。川平湾はとてもきれいな海を見ることができました。天気にも恵まれ、エメラルドグリーンの海を見たり、海の中に足をつけたりととても楽しむことができました。また、近くのお店でサターアングギーなどの軽食を食べてみんなでこれから何をするか、なにが楽しみなのかを話す時間はとても楽しかったです。やいま村では、リスザルや水牛などを見ることができました。すぐ近くで見ることができない動物たちに触れることはとても楽しかったし癒されました。また、車の中であまり話したことないメンバーとたくさん話したりゲームをしたりする時間もとても楽しかったでです。
- 16.石垣港では、船が着岸した際に「ようこそ」の大きな文字が見えて歓迎されているような気持ちになった。ただ、下船後にタクシーを捕まえるのに大行列に並んだのがしんどかった。初めて石垣島に上陸したが、とても美しく観光施設が整った島だという印象を受けた。島内はレンタカーで移動したが、公共交通機関が十分ではないため、車がなかったらどこも観光できていなかったと思う。
- 17.石垣島では、みんなでレンタカーを借りて島内を回った。まずは川平湾に向かい青い海を眺めた後は、少しお昼を食べて腹を満たした。ブルーシールやサターアングギー、蕎麦などのご当地グルメを食べた。その後はリスザルを見に向かった。小さくて可愛いリス猿たちがたくさんいて、みんなで写真を撮ったり楽しく過ごした。
- 18.石垣島は、港から観光地までに向かう橋が1本しかなかったため、タクシーが少し混んでいて、下船から遊び始めるまでに少し時間を要した。石垣島で私たちが行きたかったところは車が必須であったが、レンタカーを借りれば観光地を数か所回れるほどの程よい距離で、ドライブときれいな海を楽しむことができた。
- 19.タクシーを利用するとすぐに港から市街地へ移動できたためスムーズに観光できた。海岸沿いの道路からは美しい海やマングローブを楽しむことができ、やいま村ではリスざる園や伝統的な住宅を満喫することができた。また、石垣牛のケバブや塩サターアングギー、ブルーシール等グルメも充実しており、五感で楽しむことができた。
- 20.石垣島では、他の参加者の方々と一緒にレンタカーを借りてビーチに観光をしに行った。道中の車道はとてもよく整備がされていて、ここが石垣島の主要な観光地として保護されていると感じることが出来た。しかし、那覇もそうであったが、閑散期でさえこのように大勢の方が来ており、付近の駐車

場がほぼほぼ満車だったという事には驚いた。

寄港地（基隆）での感想

（港・ターミナルの施設評価、観光地としての魅力など）

1. 私たちは、一日目は台北市内を散策した後に夜は夜市に行った。移動は鉄道を利用する事が多かったが、切符の券売機で現金以外の決済方法が充実していたり、多言語対応していた点において、日本よりもデジタル化が進んでおり、驚いた。また、個人的に台北市内にあるスタバでオンラインのミーティングをやったが、日本よりも回線が安定していたのでとても便利だった。2 日目は九份を散策し、土産物などをたくさん買えたので良かった。
2. 基隆港を訪れるのは初めてであったが、港自体の施設は基本的なニーズを満たしているものの、観光スポットへのアクセスが少し不便だった。市内の主要な観光地へは交通手段をしっかり計画する必要がある、もう少し便利だとよかった。しかし、基隆の夜市や台北市内、九份など魅力的な観光地が多く、地元の市場や寺院を訪れると、台湾の文化や食文化を直接体験することができ、とても充実した時間を過ごすことができた。
3. 基隆では、景色・歴史の 2 つの点から堪能することができたと考える。まず景色では、1 時間ほどで九份への移動が可能のため、道中の台湾の交通状況に驚くとともに、九份での赤を主とした景色を堪能することができた。また、1 時間ほどで移動できる台北にて、歴史を堪能することができる建物を通して、台湾の歴史を堪能することができたと考える。
4. 今回、私自身、基隆を訪れるのは初めてでしたが、下船時のターミナルは特に時間もかかることなくスムーズに寄港地の観光へと行くことができました。港から都市の中心の駅まで近く、台北や九份、十份などの台湾のメイン観光地までのアクセスがよく快適でした。
5. 1 日目はシーフェンやジョウフェン、夜市を観光し、2 日目は台北市内の観光を行った。クルーズ船が台湾の内陸にかなり近いところで下船ができたため、電車の駅や基隆市内が近く、公共交通機関は整っている印象だった。観光地としても日本人に人気のあるジョウフェンをはじめ、ランタンを飛ばせるシーフェンや都会として知られる台北など興味深いスポットや活動が盛りだくさんで時間が足りないほどだった。

6. まず港を降りる時、乗る時でお土産が売っているのがとても便利だと感じた。台湾一日目には十份で灯籠を上げ、九份、夜市でグルメを楽しんだ。2 日目は台北で鼎泰豊で、チャーハンや小籠包などをたのしんだ。中国にも言った経験があるが、台湾の人は中国人よりも日本人に近いと感じた。電車で迷っていた時も助けに声をかけてくれたり、ゴミをポイ捨てする人などもおらず親切な人が多いと感じた。
7. 船を降りて少し歩くとすぐに駅があるため、台北や十份、九份などの観光地にも電車ですぐに出向けるところが非常に魅力的であった。二日間を通して、それらの観光地を網羅できた。また、港の近くに歩いて行ける距離で夜市があるため、夜遅くまで台湾を満喫することができた。
8. 到着後の景色から、海外にやってきたことを実感した。海外に飛行機を使わずとも行くことができることはクルーズ船の大きな魅力であると改めて感じた。また観光地として初めての台湾に入国したのだが、日本語や日本の製品が当たり前のようにどの施設にも使われていたため、非常に観光しやすかった。
9. 基隆では十份でランタンを飛ばしたり、中華料理の食べ歩きをして、九份に行き、そこでも名物を食べ、最後に基隆夜市にいきました。ランタンにそれぞれの願い事を書いて叶うように飛ばしました。本場の小籠包や餃子は日本で食べるものよりも特別感があり、たくさん食べることができました。
10. 日本とは異なる風景を楽しみながら観光名所を訪れることができる。しかし、かなり電車で時間を要する
11. 日本に友好的な国であることもあり、駅や道路の標識に日本語があったり、電車内のアナウンスにも日本語が使われていたり、とても観光がしやすいと感じた。トイレは若干汚いように感じたが、電車の切符購入にクレジットカードが使える点などは、日本にはあまりなくとても便利であったため、ぜひ日本でも導入してほしいと感じた。
12. 基隆港は設備が整っており、入国手続きもスムーズで利便性が高いと感じました。港周辺には市場や飲食店が多く、台湾のローカルグルメを気軽に楽しめるのが魅力です。台北へのアクセスも良く、九份や十分といった人気観光地への拠点として最適でした。特に九份のノスタルジックな街並みと夜景は印象的で、幻想的な雰囲気を満喫できました。活気ある港町の魅力と、観光の利便性を兼ね備えた寄港地でした。
13. 基隆では、観光地である十份、九份を 1 日目に行き、観光客の定番コースを楽しみました。夜には基隆近くの夜市に行き、台湾の食事を楽しみました。

そして 2 日目は、台北に行き、火鍋を楽しみました。着港した場所から基隆のオブジェのようなものが見えたり、台湾が見渡せる場所にあったので、異国を感じることができました。駅からも近く異国にしては迷わず観光できました。

14. 基隆付近にはバス停や電車の駅などのインフラが想像以上に整備されていたことに驚いた。台北までのアクセスもよかった印象があるが、電車の本数があまりなかった印象がある。自分には行っていないが、基隆の近くの夜市も良い観光地だと思う。英語はもちろん、日本語も通じるので日本人向けの観光地だと感じた。
15. 私たちは基隆から十份と九份に行きました。基隆からの道のりは遠かったですが、その道のりも友人たちと一緒にいるので楽しく過ごすことができました。十分では各々の叶いたい夢やこれからしたいこと、やり遂げたいことをランタンに書いて飛ばしました。日本ではできない体験ができてとても充実した時間を過ごしました。九份では、気になったお店に各々入り、食べ歩きをしたり、お土産を買ったりしました。千と千尋のようなランタンや赤色に囲まれた空間はとても幻想的で、昼間もきれいでしたが夜になるとさらにきれいで感動しました。夜は基隆の夜市へいき、台湾料理や輪投げのゲームなどをして、とても充実した1日を過ごせました。二日目は、鼎泰豊や火鍋など各々食べたいものを食べることができました。
16. 基隆港は、外貨両替所や土産店があり港の設備が充分だと感じた。近くにショッピングセンターや鉄道駅、バスターミナルがあったこともあり観光地の移動は調べていけば十分にできるように感じた。現地の方は親切な方が多く、また観光地も日本人に十分に知られているところを周ったということもあり、2日間とも楽しい時間を過ごすことができた。反省点としては、移動に迷ってしまい時間ロスがあった点で、船内新聞等で情報収集をしなかったことだ。
17. 基隆では、まずは電車を使って十分まで向かった。十分では、願い事を書いたランタンをあげ、少し屋台なども楽しんだ。そのあとは、また電車とタクシーで九分まで向かい、千と千尋の神隠しのモデルとも言われているスポットで写真撮影。その後、元気な子は基隆の夜市へ向かい夜の屋台やゲームを楽しんでいた。
18. 基隆は、有名な観光地である九份、十份、台北からの距離が少しあり、電車の本数が多くなかったため、少し時間を要した。しかし、乗り換えはそれほど多くなく、難しいわけではなかったため、台湾の電車旅も楽しむことができた。

てよかった。基隆の夜市も充実していて、港から歩いて行ける距離にあったことから夜までしっかり楽しめたこともとてもよかった。

19. 港近くの夜市では所狭しと飲食店が連続しており、ご飯ものや揚げ物、汁物と目移りした。自分は様々なシュウマイや包子のある屋台で5、6個ほど購入し友人と共有したがいずれも出来立てだけあって美味しく、素晴らしい思い出になった。港周辺も夜になるとライトアップされ、幻想的な雰囲気であった。

20. 基隆では台湾をはじめ、十分や九分といった北部の有名な観光地を訪れた。台湾の港の状況を見ることは時間の都合上かなわなかったが基隆では旧日本統治時代の日本郵政の支店や旧駅舎の名残を見ることが出来て台湾北部の重要な慣行、文化、物流の起点であるという事を認識することが出来た、また、ターミナルは寂しいもののよく整備されており、各種クルーズにしっかり対応していることが見受けられた。

寄港地（宮古島）での感想

（港・ターミナルの施設評価、観光地としての魅力など）

1. 宮古島は滞在できる時間が 16 時までと非常に短かったため、あまり楽しむことができなかった。しかし、レンタカーを借りて見に行った青の洞窟は非常に綺麗だった。また、嵐の大野が関わっている海連というホテルの建設現場を見に行ってきた。今年中にオープンするらしいのでぜひ行ってみたいと思う。
2. 宮古島の港は設備が整っており、小規模ながらも非常に機能的であったが、やはり、本島と比較すると整備の不足を感じた。石垣島や沖縄本島と比べると、宮古島独自の静かで穏やかな雰囲気が魅力であった。宮古島も石垣島同様に車がないと観光地に行けないという不便さはあった。また、石垣島と比べて、観光地が少ないような印象を受けた。しかし、宮古島には石垣島にはないような独特な穏やかさがあった。短い滞在であったが、満喫できた。
3. 宮古島では、食・景色の 2 つの点から堪能することができたのではないかと考える。時間がない中での観光であったため、すぐにレンタカーを借りて離島ヘドライブをする中で、宮古島特有のゆったりとした雰囲気や、海の綺麗さ、自然が作り出す池といった自然景勝地を堪能することができた。

4. 宮古島も他の寄港地同様にスムーズに下船することができ、岸壁からターミナルバスが出ており、便利でした。その後は、宮古島は歩いて観光しましたが、宮古島神社やビーチなど歩ける範囲に観光地やレストランが多くありとても良かったです。
5. 宮古島では湾岸を散策した後、レンタルサイクルをして伊良部大橋を観光した。下船後すぐにターミナルまで送迎バスがあったことで、タクシー乗り場まで簡単に移動することができた。タクシーの移動が主流になっていたので観光バスなどがあるとよりいいと感じた。宮古島の海は非常に綺麗で、海には入らなかったがビーチや海の景色を楽しむことができた。
6. 宮古島も石垣島と同じように自然が多く残っており、海がとても青くハイビスカスの花が綺麗だった。石垣島よりも街中にオシャレなカフェが多く、また道も広いなど若干ではあるが人口が石垣島よりも多いことが感じられた。他の観光客が少なかったためか、よりゆったりできた気がしてとても満足だった。
7. 船を降りたあと、宮古島ではレンタルサイクルをした。宮古島の綺麗な海を眺めながらのサイクリングは、海風なども新鮮でかなり印象深い。また、その後はハンバーガー屋さんに訪れて、宮古島の雰囲気を感じながら食べるハンバーガーは、特別感があってより美味しく感じた。
8. 石垣島と同様に海の景色がとても綺麗であるため、そのような観点からはクルーズ船との相性はよく、寄港地としても最適であると感じた。ただ、石垣島と同様に沖縄の魅力を体感するには多くの時間を要することと、移動手段が限られていることからクルーズ船の寄港地としては合わない部分もあるように感じた。観光地としては、これぞ沖縄を感じられるような景色と街の風景が印象的で魅力的な場所であった。
9. 宮古島では、港の近くを散策しました。海に行ったり、海の近くにあった古着屋にも行きました。また、宮古島といえばハンバーガーの印象があったので、昼はハンバーガーを食べに行きました。大阪と違い人があまりいなかったのも、自然をより感じることができました。
10. 地元の穴場飲食店やオーシャンビューを徒歩で楽しむことができる。近場を散歩するにはいい港であると感じる
11. 早めにクルーズ船に戻り、スライダー・アスレチックを楽しむという予定であったため、宮古島はあまり観光できなかったが、友人と訪れた地元の穴場食堂屋さんで食べたそばとカレーがとてもおいしかった。また、友人は自転車を借りて海までサイクリングをしていたため、後から綺麗な海を背景とし

- た写真を見て、自身も海までサイクリングをしておけば良かったと後悔した。
12. 宮古島の港は清潔で整備が行き届いており、クルーズ船の乗下船もスムーズでした。観光地としてのビーチの白砂と透明度の高い海は息をのむ美しさでした。宮古そばや南国フルーツも楽しめました。都市の喧騒を忘れさせてくれる穏やかな雰囲気があり、リラックスできる理想的な寄港地でした。
13. 宮古島は、石垣島と同様とても海が綺麗で、寄港地に着いた瞬間からそれが感じられました。他の観光地と異なって良いところは、ターミナルまでの送迎バスが多く、ターミナルからのロケーションもとても良く、ゆったりと心地よい時間を過ごすことができました。
14. 石垣島と同様、レンタカーやレンタルサイクルがないと観光には不向きだと感じた。宮古島ではレンタカーを借りていなかったため港付近を観光した。海に囲まれながら散歩したりランチを食べたりしたことが至福のひとつだった。レンタカーやレンタルサイクルをもし借りていたら、海風を感じながら運転できることも一つの魅力だと思う。
15. 宮古島では、神社でお祈りやおみくじを引いたり、レンタルサイクルを行い伊良部大橋までサイクリングをしました。橋の上から海を見てみると水の透明度が高かった。運良く海亀を見ることができました。橋の上から海亀が見えるとは思っていなかったため、とても驚きましたし感動しました。風が強く少し寒かったですが、海沿いを車で走るのとはまた違った楽しさがあり、短い時間でも充実した時間を過ごすことができました。
16. 港自体は、宮古島も石垣港と同様に大きく印象に残ったことはない。ただ、宮古島は石垣島と違って徒歩やレンタサイクルで周遊できたのでタクシーの行列に並ぶといった不便さを感じることはなかった。現地の方とお話する機会もあったが、ベリッシマの存在を知っており、客として歓迎されている印象を持った。海などの自然が美しく、観光地として魅力的だと感じた。
17. 宮古島では、宮古島神社へ向かってみんなでおみくじを引いたりして楽しんだ。その後は、人数が多かったこともあり、サイクリングを楽しむチームもあれば、ハンバーガーを楽しむチームもあり、各々宮古島を楽しんだ。小さな島であるため、歩いても十分に観光できるところが魅力であると感じた。
18. 宮古島では、港からターミナルまでシャトルバスがあり、ターミナルを出るとすぐに町に出られたのがよかった。下船から一番時間を要しなかったように思う。レンタサイクルをすると、伊良部大橋を渡ることもでき、橋の上からウミガメやエイを見つけられたことが印象的で島の良さを感じた。港から歩いて行ける範囲にきれいな浜辺やハンバーガー屋もあり、歩いて観光すること

もできたのがよかった。

19. 美しい自然が最も印象に残っている。レンタサイクルで伊良部大橋の途中まで向かい、透き通った川と海、またウミガメやエイ等生物も観察するなど全身で自然を感じることができた。ターミナルから出ていた無料バスは、島内の広場に接続しており、催しが開かれていたほかフードトラックも来ており、集客のシステムが機能していると感じた。
20. 宮古島ではレンタルサイクルを借りて伊良部大橋の途中まで渡るという観光を行った。実際、港湾そのものは特筆するものはなかったが、市街に近いターミナルまでバスが出ており不便を感じることはなかった。また、現地ではクルーズに参加している人向けらしきイベントが行われており、このような現地の方と協力した取り組みが今後の市場拡大につながると確信した。

各港湾（自治体）からのプレゼン・パネル討論を聞いての感想

1. 宮崎市と神戸市が印象に残った。宮崎市の方たちは唯一配布資料を準備しており、気合いが入っていると感じた。実際に話している中でも、クルーズ船の寄港において他の市よりも遅れを取っているという意識があり、何とか追いついて行きたいという熱い想いを持っていたので、そんな方たちと一緒にプレゼンを練る事ができたのは非常にいい経験だと思った。神戸市は、自分が住んでいる町という事もあり、どういう観光スポットがあるのかという視点で聞いていたため印象に残っている。
2. 清水港チームのプレゼンは印象的であった。観光客向けに事業者主導で多様なイベントを企画し、地域の魅力を最大限に引き出す工夫がされていた。私が学部時代に静岡県に住んでいた時に、このようなクルーズが寄港するイベントがあったことに驚かされた。また、油津港チームのプレゼンでは、観光資源が限られている中での着実なインフラ整備について印象的であった。発表前の MTG では、詳細なデータを基に、地域のインフラ整備とクルーズ客のニーズに応える施策を提案していた。
3. 神戸港と清水港が特に印象が残ったチームであると考え。まず神戸港では、神戸港ならではの観光客で溢れているといった現状に対して、なるべく観光機会を奪わずスムーズな移動を提供するための施策が行われている点に共感するとともに理解することができた。清水港では、立地がら高速道路と近いといった特徴を生かした施策を考えられており、立地の強みを活

かした提案がされていると感じた。

4. 印象に残った 2 チームは神戸港と清水港である。神戸港も清水あ港もクルーズ船に寄港地としてそれなりに確立していることを初めて知った。神戸港はクルーズ船の寄港地の誘致という段階から次の乗船客にどのようにして神戸でお金を落としてもらえるかという段階への課題意識に進んでおり、様々な工夫を考案しているのだなと実感した。また清水港もクルーズ船を誘致するためにいろいろなクルーズ会社に売り出したりとクルーズ船が日本に来るまでに様々な努力と課題があるのだと感じ、乗船している側からではわからないべつの視点の話聞くことができて良かった。
5. 印象に残ったチームは神戸港と博多港である。神戸港は日本の港の中でも非常に寄港が多い港であり、大阪や京都に近いというメリットから観光客に対する支援も数多く行っていることを学んだ。神戸市内でお金を落としてもらうための取り組みは今後要検討していく必要があると感じた。博多湾は公共交通機関の充実だけでなく、クルーズ NAVI システムを活用して観光客の訪問先や訪問時間を分散させて混雑緩和を図ろうという取り組みは非常に興味深かった。
6. 特に神戸港の自治体の方々の発表が印象に残ってる。観光客が大阪などに流れてしまうという問題を解決するためにおもてなし事業など様々な取り組みを行っていることが出来た。また、金沢港の自治体の方々の発表も印象に残っている。私たちの班は金沢港についての発表をしたが、自治体の目線で見るとコロナ禍に様々な努力があったのだと知ることができた。
7. 神戸港と広島港。神戸港は自分自身が学生チームとして担当した港であったが、考えていた課題点をしっかり解決できる取り組みを既に行なっていたことが印象的であった。広島港は、世界的に有名な歴史のある街で、海外のクルーズ船の立ち寄りが多いことが印象に残った。このような機会を通して、広島という街、原爆の実態を広めることは重要であり、より寄港を促進するべきだと感じた。
8. 宮崎港と金沢港が特に印象に残っている。この 2 つの港は、他の港以上には栄えていない状況からの対策や栄えさせていきたいという気持ちが感じられた。また金沢港については地震の影響を受けている状況からさらに盛り上げていきたいという方針が魅力的であった。金沢は以前の寄港地にも含まれていたため、応援したくなった。
9. 私が印象に残っているのは、博多港のプレゼンと、神戸港のプレゼンである。博多港のプレゼンが印象に残ったのは、私たち自信も博多港のプレゼンを

おこなったからだ。自分たちが調べたことのある内容がでてくることがあったので、理解しやすかった。

10. 広島には魅力的な観光名所や世界遺産があり、観光するにはもってこいの港であると感じた。どの港もそうだが宮崎港や油津港にはまだまだ課題が残っていると感じさせられる発表だった。
11. 自治体プレゼンのうち、最も印象に残ったのは清水港チームである。私のチームが清水港担当であったこともあり、私達が考えた観光プランの補足や他の魅力を伝えていただき、大変興味深かったからである。次に印象に残った自治体チームは、博多港チームである。私の出身は福岡県であるが博多港についてはほとんど知識がなかったため、身近だが未知なものとしてとても関心を持って聞きたいと感じたからである。
12. 自治体プレゼンでは、各チームがそれぞれの港の現状や今後の展望を詳しく説明しており、地域に根ざした視点が印象的だった。静岡港のチームは、清水港のポテンシャルとの結びつきを明確に示していた。一方、広島港のチームは、港の歴史や役割に焦点を当て、宮島観光との連携やクルーズ船誘致の可能性を具体的に説明していた点が印象に残った。どちらのチームも地域に根ざした深い考察があり、港の重要性を再認識する機会となった。
13. 一つ目が、神戸港です。神戸港は自分が担当した港だったこともあり、自治体の方からの課題が自分たちが見ていた視点と繋がる部分があり、とても印象的でした。二つ目が、油津港です。「油津」という地名すら知らなかったところから、学生、自治体共にプレゼンを聞き、魅力的な所なんだと知ることができ、とても印象的でした。
14. どの自治体のプレゼンも分かりやすかったが、特に神戸港と広島港が印象に残っている。神戸港は自分自身が担当した港であり、学生プレゼンと内容がリンクしている部分があり学生視点と自治体側の視点にあまり齟齬が無かった点が嬉しく、下調べをよく行ってよかったと感じた。広島港は、プレゼンスライドを中心に地図、グラフがとても見やすかった。内容がスツとはいつてくるような資料だと感じた。
15. 印象に残ったチームは、清水港と広島港です。清水港と広島港は、どちらも外国船の誘致に成功しているというのがとても印象に残りました。清水港は富士山、広島港は厳島神社など、港の近くの世界遺産だったり、港から見える景色を武器に観光客の注目をあつめ、観光誘致に成功し、自治体の協力のもとクルーズ船の誘致に成功されていたというのがとても印象に残っています。

16. ①清水港：私が学生側で担当した港でもあるが、自治体の方のプレゼンを聞いて日本三大美港として、自然と観光施設を含めて多くの取り組みをしていることが分かったから。②油津港：油津港の知名度がそれほど高くないが、その分クルーズ船誘致に向けての熱意が高いように感じた。
17. 自治体のプレゼンでは、神戸港と油津港が最も印象に残っています。神戸港は、私自身が兵庫出身ということもあり、馴染みのある港でありながら詳しい情報については知らなかったため、より自分の地域の理解を深めることができてよかったです。また、油津港はその反対で、今まで聞いたことのなかった港であり、また小さな港であったため、説明をしてくださった際に興味をそそられたため印象に残っています。
18. 印象的に残っている 2 チームは、神戸港と、広島港である。私にとって一番身近な神戸港は、クルーズ船から下船する人々がどのように観光するのかを想像しやすかった。京都や大阪とは違い、日本を感じられる観光地が少ないという課題は大きな課題でありながら解決の難しい課題であると感じた。広島港の印象的だった点は、国内船の寄港の少なさである。広島は日本人にとっては電車等でも行きやすいことから、クルーズ船で広島に行くものをなかなか選ばないかもしれない。しかし、クルーズ船での経済効果を考えて、クルーズならではの広島の良さがほしいと考えるが、こちらも難題であると感じた。身近に考えやすい2つの港がやはり印象に残りやすかったというのが正直な感想である。
19. 神戸港に関して、神戸港に入港しても大阪や京都に人が流れてしまうために市内への経済波及効果を十分取り込めていないという問題点が自分にはなかった着眼点であり、目からうろこの思いだった。また広島港に関して、課題のうちの一つに乗客への救急医療対応を挙げられていたのが印象的だった。乗客への医療対応をする者がおらず、現場の代理店社員がやむなく対応している現実があり、大きな負担となっていると学んだ。
20. 自治体の方々の発表で印象に残ったのは宮崎港と神戸港である。宮崎港では港湾設備が大型船に対応しきれていないということをお聞きすることが出来た。このような課題は市場の拡大のために急務であり、このような投資は全国各地で行うべきと感じた。また、神戸港では、オーバーツーリズムに近いような論点が高なされており、渋滞といった問題はクルーズだけでなく一般観光としても重要な問題であるため、非常に興味をそそられた。

学生プレゼンに対する感想

1. まず優勝することができてシンプルに嬉しかった。私たちのチームは元々優勝する目標を掲げていたため、達成できてよかった。ただの観光PRで終わらないように、宮崎市の街づくりのビジョンと結びつくような観光プランを提案したいと考えており、その点が評価されたので良かった。印象に残ったチームは、神戸港と油津港である。神戸港は観光で訪れる場所の提案だけでなく、一日のスケジュールを組んでくれていたため、実際に観光している時のイメージが湧きやすかった。油津港は観光資源が少ないながらも魅力的にPRされているのが印象的だった。
2. 学生プレゼン企画全体について、すべてのチームがきちんと役割分担をして準備に取り組んでいたと感じた。プレゼンテーションはどれも内容が充実しており、素直に1人の観光客として各観光地・港湾に訪れたいと思った。その中でも、特に印象に残ったのは宮崎港チームである。単に観光地としてではなく、宮崎港を居住地としても魅力的にするためのプランを提案しているのが印象的であった。また、神戸港チームのプレゼンも素晴らしかった。港を起点とした1日の観光スケジュールを綿密に提案し、各観光地や食事のスポットまでを組み込んだプログラムが、来訪者にとって魅力的な一日を提供できると感じた。
3. 全体的に、各観光地をどのように楽しむことができるのかや、観光地ごとの課題を通して、今後各々の観光地がどのような課題を解決するために、どのような施策を実施していて、観光地としてどのような楽しみ方ができるのかを理解することができたと思う。また、特に神戸港と清水港では、それぞれの観光地としての利便性といった強みに合わせた観光プランを提案されていたのではないかと考える。
4. 学生プレゼン企画では、普段あまり関わることのない自治体の方々とクルーズの寄港地としての魅力としてどのようなものがあるのか考えることができ、大変貴重な体験ができたと感じている。特に印象に残った2チームは金沢港と宮崎港の2チームだ。金沢港は、クルーズの寄港地からの観光スポットの経路と所要時間と料金などとても細かいところまでリサーチ出来て良かった。また、宮崎港は、今後の観光地活性化のためのターゲットや将来ビジョンまで見据えてプレゼンをできていたので良かった。
5. 今まで港に注目してプレゼンをする機会がなかったため、どんなプレゼンが

良いのか友達と考えながら準備するのは非常に面白い経験であった。自治体の方の意見も参考にしながら良いプレゼンができたと感じている。油津港のプレゼン資料は観光地だけでなく移動時間や費用など細かい情報収集も行なっていて、非常にわかりやすかった。また、宮崎港では移住という新しい視点からの発表があり、面白いと感じた。

6. かなり時間が限られている中、いかに端的に分かりやすく伝えるかが力ギだと感じた。そんな中で、1 番印象に残っているチームは最後の宮崎港だ。宮崎への定住という所まで話を広げ、冒頭から引き込まれる内容だったからだ。また、神戸港の発表も印象に残っている。地元神戸が魅力的なのはよく分かっていたが、観光客が大阪や京都に流れてしまうという問題があることはとても悲しいと感じたからだ。
7. 金沢も博多も旅先として訪れたことがあるが、自分の知らなかった観光スポットが多くあって、かなり印象深かった。港から観光スポットまでのアクセスも想像以上に良好で、双方のプレゼンテーションを見て、今後は船で旅先を訪れることも選択肢に入れたいと思えるようになった。
8. クルーズ船という楽しいイベントの中でも、このような発表の機会があることで今後の社会人として必要な経験もできることも改めて魅力の 1 つであると感じた。今回は神戸港と金沢港が特に印象に残った。理由としては実際に目にしたことがあるということから、その課題や観光ルートについて想像しやすかったことが大きな要因である。
9. 私が印象に残ったのは、チーム1の金沢港とチーム7の宮崎港です。金沢港は、有名な観光地だけでなく、あまり知られていないマイナーな場所を紹介してくれて、印象に残った。宮崎港は課題を発表するだけでなく、その後のことも少し触れて発表していたので、非常に印象に残った。
10. 油津港チームは現地でかかる観光名所までの所要時間やプランを綿密に練っていて説明も非常にわかりやすかった。宮崎港のチームは話し方や資料の視覚効果に力を入れていて引き込まれる発表だった。
11. 時間の都合上、発表時間を短縮しなければならず、魅力を時間内に伝えきることができなかったため、悔しさが残ったが、私自身は学生プレゼン企画に関して、積極的にグループで分担・協力して取り組めたと感じる。印象に残ったチームはチーム1（金沢港）である。キャッチコピーに金沢の方言を取り入れたり、発表資料へのこだわりを感じたからである。また、チーム3（神戸港）の発表も印象に残った。私が住む兵庫県西宮市からとても近い神戸港周辺の観光プランを聞いて、まだ行ったことのない港付近の建物や

飲食店に興味を持ったからである。

12. 学生プレゼン企画では、各チームが工夫を凝らした発表を行い、港の魅力や課題について深く学ぶことができました。特に静岡港のチームは、観光の発展計画を提案し、具体的なデータを交えた説得力のあるプレゼンが印象的だった。一方、広島港のチームは、歴史と観光資源を活かした港の活性化策を発表し、宮島との連携やクルーズ船誘致の可能性に触れていた点が興味深かった。どのチームも熱意が伝わる素晴らしい発表で、港の重要性を再認識する機会となった。
13. 自分のチームも含め、全員、全チームが自身の担当の港を熟知しており、遊ぶだけでなくプレゼンにも本気なところ、また、楽しそうに話しているところがとても良く感じ。特に油津港と宮崎港について印象に残った。あまり行ったことがない地域だったこともあり、観光地に関して未知だったこともあり、いつか行ってみたいなと感じられた。
14. 学生プレゼン自体のレベルが高くて、プレゼンの内容はもちろんのことパワーポイントの構成やデザインも勉強になるポイントが多く、今後プレゼンを行う際の参考になるものばかりだった。
15. 私が印象に残ったチームは神戸港と金沢港です。まず、印象に残るパワーポイントを作っていたなと思います。金沢港は写真やアニメーションを効果的に使い、金沢港の魅力や課題について書いていたと思う。課題についてもきれいにまとめられており、話し方も資料を読むのではなく要点を切り取って話していたため、とてもわかりやすい発表だった。神戸港は、五感で楽しむというキャチコピーが素晴らしいと思ったし、五巻全てで楽しめるようなプランを考えていたのも素敵だなと感じた。また、パワーポイントも変化をつけて、見やすくついていたので、視覚的にも印象に残る発表だった。
16. ①宮崎港：プレゼンが完結で分かりやすかった。今回のテーマが、寄港地での半日の観光プランであったが、プランだけではなく移住まで話を進めているのは画期的であり、クルーズ船の可能性を感じることができた。②神戸港：関西学院大学におそらく最も近い港であり、私自身にも馴染みがある場所ではあるが、プレゼン発表を聞いて改めて神戸港という場所が観光資源に恵まれているということが分かったから。
17. 友人同士ということもあり、お互いがプレゼンする姿を見ることができたのがとても新鮮だった。また、学生が考えたプレゼンに対して各港の方々からも補足の説明があったことでより知らない魅力をたくさん知ることができた気がする。中でも清水港と博多港が印象に残っており、その理由はプレゼン

を聞いて実際に足を運びたいと感じたからだ。タイムスケジュールや、おすすめポイントなどがわかりやすく、説明を聞いていて興味が湧いた。

18.印象に残っている2チームは、清水港と、宮崎港である。2つを選んだ共通の理由としては、私自身が考えの及ばなかった点を考えられていたためである。清水港は、時間は足りなかったものの、自治体側の目線として、観光費用まで計算されたコースであった点である。一方、宮崎港は、リピート率や滞在性を考慮されていた点である。私の班は1回の観光にしか焦点を当てておらず、宮崎港は、本格的に自治体の課題を解決することを目的とするコースであったことが印象的であった。

19.全国の港湾について知り、また自分の担当港に関しては周辺地域の観光情報まで詳しくなることができ、実際に訪れてみたいとまで思った。油津港チームに関して、自分が担当していた宮崎港と同じ宮崎県に位置する港である為、如何様なプランか興味があつたが、まさかのターゲット層と狙い(学生向け、スポーツ合宿)が重なるという偶然があり印象的だった。また、神戸港に関して、観光地としての魅力や港としての機能は十分である一方でいまだ課題が存在すると発表していたのが印象的だった。

20.プレゼン企画自体の感想としては、時間に押されていたという事もあり十分な意見交換を行えなかったことが残念である。また、印象に残ったチームは博多港と神戸港である。理由としては共通しており、スライドの攻勢が非常にシンプルで見やすく、わかりやすかったという事。そして、発表を聞いていて自分自身が旅行している感覚に慣れたからである。

スマート・クルーズ・アカデミー企画全般についての感想と今後の要望

【スポーツ交流会(増え鬼)、プレゼン大会、フォーマルナイトなど】

1. スポーツ交流会では増え鬼をやったが、誰でも参加しやすいものだったので非常に良かったと思う。プレゼン大会では、もう少し発表時間が長い方がもっと濃い内容でプレゼンできたと思う。宮崎市にどうやって若者を流入させて定住化させるかの戦略をもう少し語りたかったと思う。その方が自治体の方たちにとっても実りのある時間にできたと思う。
2. スマートクルーズアカデミー企画全体は、多彩なイベントが組み込まれており、特にホワイトパーティーのようなフォーマルな服装でのパーティーは初めての経験であり、非常に貴重で楽しい時間であった。スポーツ交流会では、

学生や港湾関係者を含む多様な人々と親しくなることができた。今後の要望としては、寄港地での飲食を含めた交流の機会やツアーなどを企画してほしい。

3. スポーツ交流会では、誰でも楽しむことができる企画を通して、学生の身としては学生間の仲を深めるきっかけになったと考える。また、プレゼン大会では程よい緊張感の中、課題抽出や施策決定の際のロジックを新たに学ぶことができ、楽しさと学びを兼ね備えた企画であったと考える。
4. スポーツ大会を一日目にするだけでどれくらいの人に参加し、他大学の学生との交流のきっかけとなったのでとても良かったです。自治体の方など初対面の方も多かったですが、大変盛り上がり楽しいクルーズ生活の幕を開けることができたと思います。また、フォーマルナイトでは、自治体の方や友人がそれぞれ写真を取り合うことができ良かったです。なかなか友人同士でもこのような機会はないので大変楽しめました。
5. スポーツ交流会を行うことで初めての学生や自治体の方とも話す機会が生まれ、すぐに仲良くなることができた。プレゼン大会は時間の都合もあると思うが、もう少し各プレゼン内容について詳しく時間をかけて聞きたいという印象を受けた。フォーマルナイトでは全員でフォーマルな格好をして一晚を過ごすという日本ではあまり行わなかった経験を行えた点で非常に面白かった。
6. スポーツイベントでは、初めて話す人も多かった中で、顔と名前を覚える良い機会になったと思う。増え鬼という誰でも楽しめるようなのも良かったと思う。みんなが参加して楽しむことが出来ていたと思う。フォーマルナイトでは、みんなで写真を撮る時間が設けられていて、それぞれ仲の良いグループやゼミなどで写真を撮ることが出来てとても良い思い出になった。
7. スマートクルーズアカデミーでは、初めての学生も多くいたため、スポーツ大会やフォーマルナイトを通して親睦を深められた。そのため、寄港地でも一緒に行動し楽しむことができた。プレゼン大会では、時間の関係上かなり切羽詰まった状況であったので、他の港をより知るためにももう少しゆっくりとプレゼンができる時間が欲しいと感じた。
8. 増え鬼についてはすべての参加者が楽しむことができながらコミュニケーションを取ることができるため、交流のきっかけとして最適なイベントであると感じた。フォーマルナイトについては、以前は最終日に行われており全員で交流ができていたことから、今回のような早めの開催よりはもう少し仲が深まってからだとより良いように感じた。

9. スポーツ交流会では自治体の人とラフな感じで会話することができて、良い時間になりました。また、あまりしゃべったことのないメンバーともそこで話すようになったり、きっかけになりました。今後は増え鬼以外のがっつりしたスポーツもしてみたいと思いました。
10. パーティ企画やスポーツ企画は特別な空間で行われていたため、より一層面白さが増したように感じた。
11. スポーツ交流会は、久しぶりに全力で運動をしたため気持ちよく、初めて会う人ともコミュニケーションをとる良い機会になりもしたので、一石二鳥であると感じた。プレゼン大会も真剣に聞き合い、良い学びの機会となったように感じる。フォーマルナイトは、人生で初めての経験であったがスーツで友人たちと写真を撮ることが楽しく、スーツでの食事も大人になったように感じ、とても良い経験になった。
12. スマートクルーズアカデミーでは、多彩な企画を通じて学びと交流の両方を深めることができ、非常に充実した時間を過ごせました。増え鬼では、初対面の人とも自然に打ち解けることができ、楽しい雰囲気の中で交流が広がりました。プレゼン大会は、各チームの個性的な発表を聞くことで、新たな視点や知識を得る貴重な機会となった。フォーマルナイトでは、普段とは異なる格式ある雰囲気の中で特別な時間を過ごせたことが印象的だった。今後は、さらに異なる形式のディスカッションやワークショップを取り入れ、より深い議論や交流の機会を増やしてほしい。
13. スポーツでの交流は、正直最初、増え鬼に乗り気では無かったですが、学校や年齢関係なく本気になって行うことで仲良くなれたので、とても良かった。プレゼンも同様、本気で取り組む事によって港の良さはもちろん、仲良くなれたことも良かった。フォーマルナイトについては、普段見られない友達のかっこいい、可愛い姿が見られたこと、沢山写真を撮っていただいたことがとても印象的で楽しかった。今後、このような活動が続けるべきであるとともに、プレゼン大会はバタバタしていたので、準備期間や発表の際含め、もう少し余裕を持って取り組みたいと感じた。
14. 顔合わせを含めたスポーツ交流会では自分の担当港の自治体の方だけではなく、他地域の自治体の方とも交流を深めることができた。チーム制で取り組んだので、チーム内の学生や自治体の皆さんと仲良くなる機会を設けてくださり非常に良かった。今回は1種目のみ行ったが、時間が許すのであれば運動会など種目を増やしていただけるとより親睦が深まったのかなと感じた。

- 15.自治体の方と交流する機会は、普段の生活でないのもとても貴重な体験だった。また、今回交流はしても自治体の方と船の中で遊んだりプレゼンのこと以外で話す機会はあまりないのかなと思っていましたが、スポーツ交流会で大人も子供も関係なく、楽しむことができとても楽しかった。また、自治体の方も気さくな方が多く、すれ違ったときに話しかけてくださったり、こちらから挨拶した時に反応してくださったりと、とても優しい方が多く、たくさん交流することができてとても嬉しかった。
- 16.スポーツ大会では、自治体の方や初めて会う学生と交流が深まり、話をする良いきっかけになった。プレゼン大会は、日本全国の港を知るきっかけになり有意義だった。ただ、自治体の方による学生のプレゼン添削を船内で行なったことで、プレゼン資料を校正する際にインターネット接続ができず、インターネットが繋がる港に到着した際も、他のアクティビティのために時間が取れず、不完全なままで発表に臨んでしまったことが心残りであり、自治体の方との交流を旅の前にしても良いのではないかと感じた。フォーマルナイトに関しては、その一体感により他の乗客と交流する機会にもなり、貴重な体験ができた。
- 17.まず、企画全般として本当に楽しいプログラムだったと感じている。クルーズという旅行でありながら、勉強をする日もあれば、思い切り遊ぶ日もあり、まるで修学旅行のような気分になれる時間でした。スポーツ交流会においては、ふえ鬼意外にも何か大人数でできたり、チームごとに対戦できるスポーツなどにしても楽しかったかなと思う。フォーマルナイトは、普段は見ることができない友人の姿を見ることができたため、とてもいい経験になった。
- 18.スポーツ交流会は、自治体の方と少しフランクに話せる時間であったし、学生同士も知らない人との交流ができたのもとてもよかった。最初はあまり乗り気ではなかったが、最後にはみんな全力で走っていてとても楽しい時間だった。プレゼン大会は普段知ることのできない港のこと、そもそもクルーズ船のことを知れて、日本でも行ってみたい港、クルーズ船が増えた。クルーズ船自体関わりのないものだったが、今後旅行の選択肢として増えたことで旅行の幅が広がり、とてもいい機会となった。
- 19.スポーツ交流会に関して、先述の通り自分は知り合いがほとんどいない状況であったので、学生と仲良くなるきっかけになりありがたく感じた。また先生が当初おっしゃっていた通り交流会は大きな盛り上がりを見せ、良い思い出の一つとなった。プレゼン大会に関しても、より港湾に興味を持ち、周辺の観光地に行ってみたくなる学びの場であった。

20. プレゼン大会においては、自分の担当しているチームの自治体の方々だけではなく、他チームの方とも意見を交換して、質疑応答する時間を用意していただけるとよりいっそう自分自身の見識も広がるし、参加した後の達成感や満足感そして次回へのリピートの繋がるであろうと感じた。また、ドレスコードの際にちょっとしたマナー講習を行ったりした場合、その場に良い緊張感が出来て、社会人に向けたよい実践的な社会学習が可能になると思う。

地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割についての感想

(国・自治体政策のあり方など)

1. クルーズ船には3000~4000人規模の乗客が乗船しているため、寄港した地域への経済波及効果は非常に大きいものだったと思う。このポテンシャルを活かすにはまだまだ改善できる余地があると思う。例えば、下船後、町の方から歓迎されるムードはほとんどなく、乗客が各々勝手に観光する流れであった。しかし、例えば、地元の観光業者が観光プランを提示して待ち構えてくれているなどがあればいいと思う。その方が、ネットでは発見できない新しい出会いも得られたのではないかと思う。
2. インフラ整備は、観光客の滞在時間や体験の質を大きく左右すると感じた。交通手段が充実していないと、本来の目的である観光に多くの時間を割けず、地域の魅力を十分に楽しむことができない。そのため、国や自治体は港湾周辺の交通インフラを強化し、アクセスの良さを重視した都市計画を推進すべきである。効率的な交通システムは、訪れる観光客にとっての満足度を高めるだけでなく、地元経済への貢献も大きい。このような取り組みが、継続的なクルーズ客船の誘致と地域活性化に繋がると考える。
3. 特に宮古島では、クルーズ客船によってレンタカー会社の社員の方々が嬉しそうにしている姿があり、クルーズ客船が地域に与える影響について実感することができた。クルーズ客船誘致は地域活性化に非常に影響を与える一方で、それに合わせた港湾での「移動」をスムーズに行わせるような施策の実施が、観光客としてストレスフリーで観光を楽しむために必要なことではないかと感じた。
4. やはり一度の大量の観光客が確約されているクルーズ船の寄港は、地域経済へ大きな影響を与えると改めて感じました。寄港地をきっかけとしてその

土地を知ってもらうためにもクルーズ船の誘致は積極的にしていくべきだと感じました。また誘致に成功しても、港湾の設備が整っていなければ、寄港地としての印象を下げてしまうため、乗船客が快く観光できるように設備や観光誘導を整備していくことが港湾にとってとても大事な役割なのだと思います。

5. クルーズ客船は一度に多くの観光客を連れてくることができ、各寄港地にとって重要な収入源になるのではないかと感じた。各寄港地だけでなく、外国人を日本に誘致することで日本全体としての利益にもつながる。クルーズ船は大きなビジネスであると、今回の経験を通して感じ、各港や国は乗客がもっと時間的・言語的不便なく観光を楽しめるような取り組みを行う必要があると考える。
6. 台湾で寄港した港では下船の時には日本のお土産、乗船の時には台湾のお土産が販売されていてとても便利だと感じた。このようなちょっとしたことが、満足度につながりまた来たいと思わせるのではないかと感じた。また、クルーズ船を誘致することで一気に何千人もの観光客を招き入れることになるので、地域活性化としても大きな効果があると感じた。
7. 地域活性化のためには、寄港地周辺の観光充実度をより高い水準にするべきだと感じた。寄港地によれば、港から観光スポットまでの距離が遠いところもあり、それを改善することでよりクルーズによる観光を考える人々も増えるのではないかと感じた。
8. 地域活性化のための役割としては、やはりきっかけづくりが大きな役割なのではないかと感じた。クルーズ船の内容は自分が行きたいと思っていた場所以外の場所にも訪れる可能性が高いため、そのような客に対して印象を与えられるような娯楽やコンテンツ、サービスを与えられることが必要であると感じた。
9. クルーズ船を誘致することはその周辺の地域の経済を活発に動かす効果があると思った。しかし、万全にクルーズ船を誘致する準備ができていないと、人口が一時的に多くなりすぎて、あまり経済が回らないということになるので、国とも連携して準備を万全にすることが大切だと思いました。
10. 今回のように学生団体として誘致を積極的に行なって行きプレゼンなどの宣伝活動を通じることで大きな誘致効果を得られると思う。
11. 実際に私のグループがお話を伺った清水港では、市役所などとも連携して、観光客のニーズに応じて交通手段を用意したり、客単価の目標を港・市役所間で共有したりと見えない部分での懸命な努力があることを知った。港

湾の役割は、地域の経済的・文化的な発展や活性化の担い手として重要な機能を果たしているのだと知ることができた。クルーズ客船誘致は港湾都市発展に有効であるため、各港が積極的に行うべきである。

12.各寄港地を訪れて感じたのは、クルーズ客船の寄港が地域経済や観光振興に大きな影響を与える。特に、観光資源が豊富な地域では、港の整備や受け入れ体制の強化が地域活性化の鍵となる。国や自治体は、港湾インフラの充実とともに、地元の観光業・商業との連携を深める政策を推進することが重要である。また、持続可能な観光を考慮し、環境負荷を抑えながらクルーズ誘致を進める戦略が求められる。今後は、寄港地ごとの特色を活かしたプロモーションや、地域住民との共存を図る施策がさらに必要である。

13.各寄港地は、空港や主な駅などから離れ、栄えているという印象はなかった。しかし、クルーズ船を受け入れることによって一気にたくさんの人がその地に訪れることで「地域活性化」におおいに携わっているのではないかと感じた。寄港地からのタクシー運転手さんは、クルーズできたんだねと、快く街のことを教えてくださり、観光客にまた来たいと思ってもらえるような取り組みがされていてとても良い役割を担っていると感じた。

14.クルーズの良さを大衆により浸透させるべきだと感じた。以前はラグジュアリー層が多いというお話を伺い、私自身もクルーズの客層はラグジュアリー層ばかりだと思っていた。しかし、いざ乗船するとカジュアル層も比較的多く貧富や年齢層問わず楽しめるものだと学んだ。単なる移動手段ではなく、移動手段さえも楽しめる点がクルーズの魅力だと感じた。

15.クルーズでは寄港地で過ごす時間が限られているため、その寄港地での観光プランを地域でいくつか用意しておくの良いのではないかと考えた。そうすることで、今まで気づかなかったその土地の魅力をその短い時間の中でも知ることができ、楽しい時間を過ごせるのではないかとと思う。また、クルーズ船に寄港してもらうためには、寄港地の整備を整える必要があるが、それには多くの時間と、膨大な費用がかかる。そのため、まずは港にクルーズ船を誘致するためにも、国や自治体が協力し整備していく必要があると思う。

16.クルーズ船に実際に乗船して、その規模感や乗客、スタッフの多さ、また乗客の余裕（金銭的な）を感じた。石垣島や宮古島といった観光業による収入が多い島では、クルーズ船一船の誘致が経済的に大きな影響を与えるため、航空機という移動手段と同じくらい、船による移動手段や観光スポットをアピールするべきだと感じた。

17.今回訪れた寄港地は比較的そもそも旅行者が多い場所だったように思うが、

それでも寄港地として大勢の観光客がその地に降り立つことで、普段は旅行先として選ばない地にも行ってみようという気になることができる。ただ、大型客船を停泊させるとなると、やはり大きな港が必要となるため、地域活性化のためには今現在小規模な港の改善と対策をするべきではないかと感じた。

18. 今回実際に乗船したことで、クルーズ船寄港地の港湾の役割や経済効果を体感できたので、地域活性化にとってクルーズ船の影響の大きさを感じた。クルーズ船受け入れ体制を整えるのにも、ターミナルやふ頭の設備を整えるだけでなく、周辺の店への対応や周辺の観光地への対応、観光ルートを考えることなど考慮すべき点が多く、一大事業であることを感じた。
19. 空路か海路のどちらかによる手段でないと観光客がアクセスできない石垣島や宮古島のような離島にとって、クルーズ客船の誘致は航空機よりも一度に輸送できる人員数が多い面において非常に有効かつ不可欠な地域活性化策であると感じた。クルーズ船の出航までのタイムリミットを意識し、観光客が精いっぱい観光しようとお金を使う点もクルーズ船誘致の利点であると考えた。
20. 港湾の役割は刻々と変化していくものであるが、常に、人や文化、産業の出入り口である。そのため、島国である日本の自治体は港湾設備というものを大切にし継続的な投資を行っていかなければならないのだと感じた。同時に、観光地があるから人が来るのではなく、そこに受け入れられる体制が整っているからこそ産業としての観光が生まれるのだという事を学べたと思う。

寄港地の地域活性化に向けた、クルーズ船社（今回でいえば MSC）の役割、船社が直面する課題、今後船社に期待すること

1. 乗客の様子を見ていると、特に年齢層の高い人ほど、観光を楽しまずに船内にとどまるケースを多く見かけた。そのため、クルーズ船社には、高齢の方でも現地の観光を楽しめるように現地のバス会社などと連携し、一定のエリアを周遊する便を増やしても良いのではないかなと思う。
2. 今回のクルーズを通して、クルーズ船社は地域活性化に向けて重要な役割を担っていると感じた。地元との連携を強化し、寄港地での経済活動を活

発化するために地元事業者との協力を深める必要がある。しかし、環境への影響や地元の方々への配慮も徹底するべきである。また、地域との協働をさらに深め、地元経済への貢献だけでなく、教育や文化交流のプログラムも提供することで、今回のようなクルーズ寄港における雇用の機会創出など地域に還元するための施策を考えていくべきである。

3. やはり役割としては、観光地に観光客を大人数引き込むといった点であるとする。一方で、これまで、クルーズ船がここまで手頃で、ここまで楽しむことができるものであると知らなかったことと同様に、全国的にクルーズ船の魅力が伝わっていない点が現状の問題としてあるのではないかと考える。今後は、卒業旅行や家族旅行としてクルーズ船での旅行が一般的になることで、さらに周りとの絆が深まる機会を提供してくれることを期待する。
4. クルーズ船社の役割は、船でしか行けない場所だが観光地として可能性がある場所へ観光客を連れていく大事な役割があると思います。あえて一番最初に観光客が選択する観光地ではなく、クルーズならではの観光地として地域と地域とをつなぐ役割があると思います。日本における課題は、若い世代や家族層の利用がまだ少ないことなのかなと思います。まだまだクルーズ船は富裕層や高齢の方などが利用するサービスだと認識されていることが多いため、若い世代や家族層へのアプローチがもっと必要なのだと感じました。
5. クルーズ船社の役割として各観光地をつなぐ移動手段になることだけでなく、クルーズ船内で十分満足して楽しめる環境づくりをすることが挙げられる。船社が直面する課題としては乗船客の継続的で安定した誘致の実現である。若い世代の誘致や一度乗船した人へアプローチ方法や何度も乗船している人たちへのリピート率の拡大の取り組みを考えていく必要があると考える。
6. 地域活性化に向けた役割でいうと、寄港することによりたくさんの観光客を招き入れることができるということである。そのうえで課題をあげるとすれば、夜の観光があまり出来ないという点である。寄港が1日であれば夕方には船に乗る必要があり、あまり内側の観光は出来なくなる。大勢の乗客ができるだけスムーズに乗船、下船できるように設備を整えることで少しでも観光時間を確保できるよう努力することが求められる。
7. クルーズ船の良いところは、例えば海外の方が日本に旅行に来る際にあまり選択肢にないような地にも立ち寄れるところだと感じた。それぞれの寄港地、その観光スポットにはそれぞれの魅力や文化が詰まっており、クルー

ズ船を通してより多くの観光客を送り届けることは、その地域の活性化に大きく関わる、よりクルーズが世に知れ渡るべきだと感じた。

8. クルーズ船の乗客には様々なタイプが乗船していることから、地域の方々に対する本当の意味での下船許可を得ることは難しく、このことは大きな課題となるのではないかと感じた。今後は国内の視点だけでは味わえない体験を魅力に消費のコンテンツを増やすという意味で日本の経済をより活性化させてもらえることに期待する。
9. 寄港地の地域活性化を促すためには、クルーズ船に乗っている乗客が寄港地で観光をしないといけないので、クルーズ船の中で観光地を宣伝したりして、寄港地で多くの人が観光するようにしないといけないと思いました。私が今後期待することは、大阪発着で色々な外国船が色々な時期に乗れるようにしてほしいと思います。
10. 手軽に楽しめるクルーズ旅行から人生に一度きりと言ったほどの思い出の残る大規模なクルーズ旅行プランを計画していき、顧客のターゲットを広げていくことが必要であると思う。
11. 寄港地の地域活性化に向けた、クルーズ船社に今後期待されることとして、寄港地に関する情報を船社が乗客に流すことや支援（交通手段の手配や割引サービス等）であると考え。実際に到着した後に現地の人に聞いてから行動するのでは時間の浪費につながるため、魅力的な観光地や食を船内のアナウンスやパンフレットを通して案内し、乗客のスムーズで快適な観光のサポートを行うことが必要だと感じる。
12. クルーズ船社（今回でいえば MSC）は、寄港地の地域活性化に大きく貢献する重要な役割を担っています。地域経済への波及効果を最大化するため、地元企業との連携強化や、寄港地ツアーの充実が求められます。一方で、船社が直面する課題として、港湾設備の整備状況や受け入れ態勢のばらつき、環境規制への対応が挙げられます。今後は、地域との協力を深め、より持続可能で魅力的な寄港地体験を提供することが期待されます。また、カーボンニュートラルの推進や、寄港地ごとの特色を活かした独自のプログラム開発にも力を入れてほしいです。
13. クルーズ船は、観光客がよく利用する新幹線の駅や空港とは離れた場所や、そもそもあまり縁のない地域に行くことができ、その地域そのものの魅力やその地域の人々の魅力を知ることができるので、観光促進の面において地域の活性化に大いに関わっている。課題としては、船には20代前後の若者はほぼおらず、高齢化している点だと考える。今後もクルーズを継承するため

に、若者への呼びかけと対策が必要だろう。今回の旅は期待を超えるものだったが、今後シャワーの温水が出ないというトラブルがあった時の素早い対応をお願いしたい。

- 14.クルーズをより浸透させることだ。ラグジュアリー層が乗船しているという固定概念がまだ残っているイメージ（自分はそうだった）。また、いまだクルーズに乗る年齢層が比較的高めである。今回のように5泊6日という短期間でも乗船可能で船内の施設も充実しているため、若年層へのアプローチを行うことでよりクルーズ文化が栄えると思う。
- 15.クルーズ船は、まだ多くの人知らないその土地の魅力を見つけることができ、その地域の活性化につながっていくと考える。実際に、私たちも寄港地の近くに何がありどんな観光場所があるのかあまり知らなかったが、それを調べるために情報を集め、実際に観光地に訪れることで、その体験を口頭で友達に伝えたり、SNSで発信することにより、その情報を見た人たちが訪れる可能性が高まり、地域活性化につながると考える。また、クルーズ船が来ることで、寄港地の住民や自治体にも前向きな意識の変化が期待される。
- 16.クルーズ船社は、旅程に設定した寄港地に大きな経済的影響を与えることができるため、地域活性化を行う上で重要な立ち位置にあると感じた。（寄港地の経済を活性化させることがクルーズ船社にどのようなメリットがあるのか分からないが）ただし、クルーズ船社が考えるべきことは、乗客が満足できる旅を提案することだと感じるため、経済効果があるからといって資源のない港に寄港するようなことがあってはならないと感じる。
- 17.クルーズとしては、大勢の観光客を寄港地に連れて行くということが最大の役割だと思います。そして、着港した際に、その土地の魅力を伝えて、できる限り船内にいる多くの人々が下船して実際に現地を堪能してもらうことが役割になってくると感じます。そのため、飛行機や電車ではなかなか行きにくい場所を寄港地とする方がより乗船客も増え、地域活性化につながるのではないかと考えています。
- 18.クルーズ船社に期待することは、より地域として活性化させていきたい地域への寄港を通して日本全体の観光を盛り上げることだと考える。クルーズ船は、1回の旅で複数個所の寄港地を巡ることができることが一番の強みだと考えるため、人気の寄港地を含むツアーに、これから活性化させたい寄港地を含む等して、日本全体の地域活性化に役立つことを期待する。その中で需要と供給のバランスを考えることが難しいであろう。

19. クルーズ船が寄港地に到着するまでの間に、クルーズ船内でもっと寄港地に関する PR や情報提供を行うべきではないかを感じる。寄港地が観光客を誘致したいスポットに効率的に集客が可能になるほか、観光客も寄港地で精一杯楽しむモチベーションの向上に寄与するのではないか。
20. 今後の船会社に期待することは、自治体との港湾の共同開発や投資の継続。そして航路の拡大、具体的には出航地の増加である。産業としての観光には官民の連携が不可欠であり、その受け入れとなる港湾を共同開発することで継続的な信頼関係が築けると思う。また、航路を拡大することでより多くの方に身近にクルーズを楽しむ機会を与えることが可能になるからである。

クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしにおける若い世代からの視点)

1. 船内はラグジュアリー店が多く、若者が楽しめるお店は限られていたため、若者も楽しめるものにするなら、寄港地の定番土産などを見れるお店があっても良いのではないかと思う。また、船内に寄港地でどんな観光を楽しむのか、そこまでどんな行き方があるのかが見れるような場所があれば事前に予定を立てやすいため良いと感じた。
2. クルーズは単なる娯楽の提供を超えて、社会的意義を持つべきだという視点は重要である。船上での多国籍の交流は、英語をはじめとした言語能力の向上だけでなく、プチ留学のような経験があった。これにより、若者たちがグローバルな視野を拓ける機会となるのではないかと考える。さらに、クルーズ業界は地域経済の活性化や環境保護のリーダーとしての役割も担うべきである。今の若い世代が環境や社会問題に敏感であることを踏まえ、クルーズ体験を通じて、若者がより視野を広げるためのプログラムを提供してほしい。
3. クルーズの社会的意義として、想像より安い値段で、快適な移動とエンターテインメント、そしてスマホが使えない環境にて、人としてオフラインで様々な方々との交流を船内でできる点が、日常の生活では与えることができない価値を与える、クルーズの一種の社会的意義なのではないかと考える。
4. クルーズ振興の在り方として若い世代や家族層が乗船するのにはすでに十分設備やイベントがそろっていると思うため、船内の充実さを売り出してい

くのと、まだまだ料金が高いと認識されているため、意外と庶民も利用することが出来るサービスであることを押し出していくべきだと感じました。ただクルーズ船に乗船するためにはまとまった日にちが必要であるため、数日のクルーズなどを提案していくことも必要なのかなと感じました。

5. クルーズの社会的意義は、エンターテインメント性を兼ね備えた移動手段であることだと考える。近年、移動手段は飛行機や新幹線、電車、自動車が主流となっているが、どれも金銭的、時間的利点を重視しており、移動中の楽しさを追求したものではない。目的地までの移動ですらも楽しめるような環境づくりを進めていくことがクルーズ船の移動手段として唯一無二の利点ではないかと考える。
6. クルーズ船はたくさんの観光客を一気に受け入れることが出来るなど大きな経済効果をもたらす。また、今回、クルーズ船に乗船してみて、まずその値段の安さに驚いた。池田先生のお話であったように、日本で一般層向けのクルーズが流行ったのが最近であるためかもしれないが、まだまだ値段が高いイメージがあるため、SNS の活用によってリーズナブルであることや、クルーズ船自体の魅力を若い世代に伝えていくことが必要ではないだろうか。
7. クルーズの社会的意義として、国内では体験できないような非日常的な生活を送れる一面や、様々な国の人が入り混じる船内は、異文化交流的な一面もあると感じた。若い世代からの視点として、クルーズ振興には、より手頃な料金設定の必要性がかなりあると感じた。
8. クルーズの社会的意義は、ネット環境が必須の現代社会において、それ以外の娯楽の楽しみの機会を与えられることだと感じた。以前の乗船時よりも長い5泊の中でネットが繋がらないという普段の生活ではなかなか体験できない機会を体感し、スマホから離れて自分を見つめ直す機会になった。
9. 私はクルーズの社会的意義は寄港地の地域活性化だと感じています。寄港地では、多くの人々が下船して、観光をするので経済がいつも以上に活発になります。また、私はクルーズ船内にもっとSNS映えするようなスポットを作ったり、学生でも手の出しやすい値段設定にすると多くの若者が乗船すると思います。
10. 国際交流や非現実を提供するエンターテインメントとしての役割を同時に担うことができる画期的な概念であると思う。人間の知的好奇心を拡大させていけるメソッドとして大義があると思う。
11. クルーズの社会的意義は、20 でも述べたように、地域の経済的・文化的な

発展の担い手である港湾に数多くの観光客を届けるパイプのような役割を果たしていると考え。今回のように、国を跨いで港ひいては都市の魅力を伝えるという点において、クルーズはとても有効だと感じる。今後の社会を担う若い世代が港を知るという経験は重要であると感じるため、今後は学生クルーズ割引などを盛んに行うことで、クルーズは今以上に振興されるのではないかと考える。

- 12.クルーズは、観光振興や地域経済活性化に加え、異文化交流の促進や持続可能な旅行スタイルの提供という社会的意義を持っている。クルーズ振興のためには、若い世代のニーズを掘り起こし、新たなターゲット層の開拓が重要である。例えば、短期間で気軽に楽しめるミニクルーズや、SNS 映えするアクティビティの充実、自由度の高い寄港地ツアーなどが求められる。また、環境配慮型のクルーズや、私の就職先でワーケーションという取り組みがあり、リモートワークと旅行を融合させた「ワーケーションクルーズ」など、ライフスタイルの変化に対応した新しい形のクルーズも期待したい。
- 13.乗船前は、クルーズについての知識を持たず、もっと高価なものであると思っており、身近なものであるとは思っていなかった。そのため、若い世代に「もっと知ってもらおう」ということが重要なのではないかと考える。実際に私も、船内でここまでたくさんの体験ができることは知らなかったし、もっと大人向けだと思っていた。お金のない若者にも楽しめるショーやプールなどがあることも含め、もっと学生に知ってもらうことが必要なのではないかとと思う。
- 14.【クルーズの社会的意義】寄港地の経済活性化はもちろんだが、多国籍の船員や客が集うことで国際的交流が促されると思う。ただ外国に行くだけではなく移動中でも手厚いサービスを受けることができる点が大いに魅力だと感じた。日常生活とはかけ離れた異世界空間のサービスを提供しているからこそ、クルーズに乗る意味があると感じた。
- 15.若い世代は、クルーズ船というものに触れる機会が少なく、また値段の高さから手を出しづらく感じてしまうため、クルーズ船に乗るという選択肢が出てこないように感じる。家族でなら、あるかもしれないが、友人同士でというのはなかなか難しいのではないかと考える。そのため、ニーズを掘り起こすためにも、まずはクルーズ船がどういうものなのかということをアピールし、その素晴らしさを知ってもらおうということが重要になってくると思う。
- 16.クルーズ船による地域への経済効果は大きく、クルーズの社会的意義は高い。そのため港をもつ地方自治体がクルーズ船誘致のための費用を支出し、

若い世代といった新たなターゲットの掘り起こしをすることは有効であるが、一方でその活動などを目にしたことはなく、私自身のイメージはやはりクルーズ船は中高年に対するものである。クルーズ船に乗らずとも船内の施設などを知ったり、体験することができたりすれば、クルーズ船に対するハードルが下がると考える。

17.クルーズの社会的意義は、人々に非日常的な時間と空間を与えることだと思う。今回実際に乗船してみて、私たち以外の利用客はその多くがご年配の方だった。私たちのように寄港地などの観光を中心に楽しみに来ているというよりは、クルーズ船内で優雅に過ごすことに重きを置いているように見えた。また、今後私が利用するのであれば、ぜひ癒しやご褒美として利用したい。そのため、クルーズは高価で若者には手を出すことが難しいという印象をぬぐい、リーズナブルに楽しめる極上の空間としてクルーズを広げていけば、若者の利用客も増えるのではないかと思う。

18.私は、今回乗船するまでクルーズ船は身近なものでなく、高級、長期のイメージであった。今回の乗船で身近なもの、旅の選択肢の一つにしようという考えに変わり、乗船したほとんどの学生がもう一度クルーズ船に乗りたいと言っていたことから、クルーズ振興に必要なのは一度乗船するという経験を与え、イメージを変えることであると考え。クルーズの社会的意義はやはり地域活性化であり、最も日本全国の地域活性化を実現できる観光手段であると考え。

19.クルーズ振興として、若い世代に働きかけるには、第一にクルーズ旅行の知名度を上げることと、次いでクルーズ代金に見合うかそれ以上の価値がクルーズ旅行に存在することをPRすることが必要だと感じる。今回友人を誘うにあたり、「行ったことないし」「高いかも、、」という声が多く聞かれたことから、この2点が若い世代へのアプローチに必要なと感じる。

20.個人的にはクルーズ船の社会的意義は非日常感の提供である。昨今の変化の激しい時代の中でこのようにゆったりとした旅行が行えるのだという事を発信することで、現代人に多種多様な休暇の選択肢を与えることが出来、社会の幸福度の増加に寄与すると思われる。また、若年層を取り込むためには、手の届きやすさや非日常感や特別感をアピールしていくことが重要だと考える。

クルーズ全般への感想

(外国人他との出会い、英語の必要性、失敗談なども)、将来への期待、上記の項目に該当しなかった部分への感想

1. クルーズ船は大きいのであまり揺れないと思っていたが、キャビンが 12 階という高階層であったこともあり、非常に揺れたため船酔いしてしまったことが悔しい。次からは酔い止め薬を持参すべきだと思った。しかし、今回とても素敵なお縁に恵まれ、内定先で元々勤めていらっしゃった方と出会い、その方が酔い止めを下さったので、非常にありがたかった。クルーズ船の旅は非常に充実していたため、また機会があれば参加したい。
2. クルーズでの体験は非常に充実しており、多国籍のクルーとの出会いから、英語の必要性を痛感した。コミュニケーションの障壁を感じたことが、英語学習の動機付けとなった。また、様々な国の人々との交流は、文化の違いを学ぶ貴重な機会であった。将来的には、友人や家族と一緒にクルーズを旅行の選択肢に加えたいと思う。また、クルーズの魅力を他の人にも共有したいと思う。
3. 外国人クルーの、お客様を楽しませようとする盛り上げ方に一番圧倒された。特に、乗船時すぐの外国人クルーの盛り上げ方やサービスが、一気にクルーズ船の世界に引き込まれる要因になった。一方で、なかなか英語が通じず意思疎通が難しい場面などもあり、自分自身の英語力向上に向けた目標も設定することができた。
4. 5 泊 6 日のクルーズ船への乗船を果たして、やはりクルーズ船は非日常を感じることでできる夢の空間であり、誰と乗船するかで楽しみ方が変わる最高のエンターテインメントであると思った。団体で参加しましたが、船内でそれぞれがやりたいことができる、人によって過ごし方に対応できるため、クルーズ船は万人に対応した施設だと感じた。部屋の乾燥で喉がやられて最後の方体調を少し崩してしまったので、次回からは水を惜しまずしっかり水分補給を行うと思いました。
5. クルーズ船は非日常的な体験をしたい人にはうってつけであると感じた。外国客船ということもあり、船内では海外の方がスタッフとして働かれており、スタッフの方と英語で話すことも自分にとっては良い英語の勉強の機会であると感じた。クルーズ船と聞いて当初はハードルが高いものであると考えていたが、今回の経験で払拭されたので、またいつかクルーズ船を活用

したいと考えると同時に周りにクルーズ船の良さを広めていきたいと考える。

6. 今回は今まで自分が触れたことの無い世界に触れること、また自分の中で視野を広げることができた、とても有意義な 6 日間だった。初めてのカジノでは 50 ドル負けしてしまったが、経験としてとても良い思い出になった。また、ただの旅行としてみんなでワイワイするだけでなく、アカデミーとしてクルーズ船や港について学んだことで、クルーズ船の経済効果などについて考えながら楽しむことが出来たのもよかった。
7. 特に、ディナーで注文を行う際には、単純なテンプレート通りの注文は簡単であったが、追加注文などイレギュラーな注文の場合の英語が難しかった。また、こちらから話す分には特に問題なかったが、クルーの英語を聞き取るのがかなり難しく、ただ話したり読んだりするだけでは英語でのコミュニケーションは完璧にできないと改めて実感した。
8. 今回のクルーズ観光も、改めて有意義な時間となった。特にこれから歳を重ねるにつれて、体力の問題もあることから娯楽の種類は減っていくのではないかと感じているのだが、クルーズ船は生き続ける限り大きな娯楽になっていくのだろうと感じさせられた。これからの社会人生活の中で辛くなった際は、今回の旅行の思い出を思い出して頑張りたいと思う。
9. 私は今回のクルーズ船の目的の多くがカジノを楽しむというものだった。毎日カジノに行き、勝ち負けを繰り返し、日本ではできない貴重な体験をすることができて非常に満足の行く旅だった。また、クルーズ船内でトレーニングするという非日常を味わうことができて、有意義な旅となった。いつか家族をつれて乗船したい。
10. 現在ではあまり世に広まっていないクルーズ観光業がこれからどのように拡大していくのかが気になる。特別な体験をさせてくれたクルーズ船にはとても感謝している。
11. クルーズ船内では、多くの外国人と交流する機会があったが、話すことが苦手なため、友人を頼る機会が多かった事を反省している。この経験を活かして、語学の勉強にも関心を持つことが大事だと感じた。外国人と話す機会は卒業後にも多いので、学生でいられる今のうちから語学を学ぼうと感じた。今回のクルージングを通して英語の必要性以外にも、多くのことを知ることができたため、休暇でクルージングをしたいなと心から思うことができた。
12. 今回のクルーズでは、特に外国人クルーとの交流が印象的でした。英語が

必要な場面が多く、簡単な会話でも積極的に話すことで意思疎通ができ、自信につながった。一方で、聞き取れずに注文を間違えたり、イベントのルールを勘違いしたりと失敗もあったが、それも良い経験になった。船内の設備やサービスの充実ぶりには驚き、食事やエンターテインメントの多様性も楽しめた。今後は、さらに日本市場向けのサービスが増え、より多くの世代が気軽にクルーズを楽しめるようになることを期待したい。

13. 英語が堪能ではないため、英語での会話が難しかったが、インドネシア出身の船員さんに出会い、インドネシア料理についてたくさん話したのが、国際交流の観点でとても楽しい思い出だ。今回友人 20 名弱で行ったので、英語が話せる人に頼むことが多かったが、もっと話せるようになる方が確実に楽しむことができるし、思わぬトラブルなどに対応できるだろう。総じて楽しいクルーズの旅だった。ありがとうございます！
14. やはり英語でのコミュニケーションが印象に残っている。国籍が違えど船内では、英語を通して意思を伝えることができた時の感動は今でも忘れられない。自分は過去に留学経験がなく、旅行で 2 度海外に行ったことがありその際にも英語の重要性に気づいた。国籍や地域にとらわれないコミュニケーションツールとして重要だと感じた。
15. こうして、貴重な体験ができたこと、とても嬉しく思います。クルーズ船での旅は、普通の旅行以上に印象に残る思い出になった。一つ心残りがあるとしたらクルーズ船についてもっと勉強しておけばよかった点だ。クルーズ船についてよく知っていれば、また違った楽しみ方ができたのではないかと、もっと濃い時間を過ごせたのではないかと思う。次また乗る機会があったら、たくさん勉強して、充実したクルーズ旅にしたい。
16. クルーズ船に乗船して感じたことは「英語の重要性」だ。船内スタッフと話すにしても、他の外国人の乗客と簡単なおしゃべりをするにしても、基本的に船内の共通言語は英語であり、英語が話せるのと話せないのでは旅の満足度に大きく差が出るのではないかと感じた。私自身はある程度英語力に自信があったが、それでもやはり伝えられないことも多く、悔しさを感じる場面もあった。この反省から、たとえば自分のキャリアのため、ということではなく自分の娯楽のためにも英語学習は継続したいと感じた。
17. 全体を通して、本当に夢のような時間だった。船内がすべて基本的には英語だったことから、普段は使わない英語の知識を絞り出し、拙い英語で会話して行く中で、もう少し英語を頑張ろうという気にもなれた。また、乗船客にもさまざまな国籍の方がいらっしや、時には国際交流をしてお話ができ

たこともとてもいい経験になった。もし自分自身が将来大きな休みを取得することができた場合には、もう少し長期のクルーズを体験してみたい。

18. 外国客船に乗船したことで、日常生活とは少し違う、海外旅行気分を味わいながら、日本の沖縄の良さ、台湾の良さを感じることもできたため、一度に貴重な経験をたくさんできた本当に濃い6日間であった。一度の旅で何か所も旅行することができ、移動中も船で遊べるというのは本当に贅沢な卒業旅行であり、後輩たちに心の底から勧めたいと感じた。いつか家族を連れてどこかのクルーズ船旅行に行きたいし、社会人の長期休暇でも気軽に楽しみにいきたいと感じる。本当に貴重な体験をして、旅行の幅が広がったことが今回の旅の一番の収穫である。

19. 非常に貴重かつ充実した日々を過ごすことができた。寄港地でグルメや地域の魅力を楽しみ、船内ではアクティビティや友人たちとの団欒、アミューズメントを満喫するといった様にクルーズ旅行中のどの瞬間を切り取っても非日常的であり、忘れられない記憶となった。英語に関しては、それほど苦手意識はなかったものの聞き取る面でアクセントの違いに苦勞したり、正しい発音にこだわるよりも表情やジェスチャー、声調を工夫する方が伝わる場合があることを知ったりと実用英語において学ぶ点が多くあった。

20. 日本人のクルーをほぼほぼ見かけない中で、海外のクルーの人と会話するのに当初は戸惑ったが、レストランでの接客はかしこまりすぎることはなく、私たちを楽しませようとしていてくれるのを感じて随分とリラックスすることが出来た。また、コミュニケーションにおいては、言語は補助的なものでしかなく、それ以外のどう伝えるのかという所が重要なのだと再確認できた。
